

雲南市道の駅活性化ビジョン

令和5年3月

雲 南 市

目次

第1章 業務の目的 P6

1-1. 背景

1-2. 目的

第2章 道の駅の活性化の基本方針 P9

2-1. 道の駅に求められている機能(国の状況)

2-2. 道の駅に求められている機能(防災機能の現状)

2-3. 上位計画の中での位置づけ

2-4. 観光振興における道の駅の重要性

2-5. 道の駅の活性化に向けた基本方針

第3章 道の駅の現状と課題 P17

3-1. 観光入込客数の推移

3-2. 商圏人口

3-3. 各道の駅の現状と課題

第4章 道の駅の全体ビジョン P29

4-1. 全体ビジョンと方針

4-2. 市内4つの道の駅の機能の再定義

第5章 各道の駅のビジョンとアクションプラン P35

5-1. 道の駅 掛合の里

5-2. 道の駅 さくらの里きすき

5-3. 道の駅 おろちの里

5-4. 道の駅 たたらば壱番地

第6章 施設整備の方針 P55

6-1. 施設改修に向けた考え方

6-2. 道の駅の防災機能

6-3. 各道の駅の施設整備の方針

資料編 アクションプランの試行 P73

第1章 業務の目的

第1章 業務の目的

1-1. 背景

全国には道の駅が1204か所(令和5年2月28日時点)あり、平成5年の開設から30年を経て、年間2億人もの利用する観光スポットとして定着した。島根県には29か所の道の駅があり、人口100万人あたりに換算すると43.6か所となり全国でトップ、雲南市においては、4つの道の駅があり、県内では最多となっている。

市は第2期雲南市観光振興計画において、「道の駅の魅力化」を推進することを掲げており、本市の観光振興施策において、重要な拠点として位置付けられている。

一方で現状、道の駅は様々な課題に直面している。

通常の商業施設であれば定期的なリニューアルにより店舗の魅力化を図られることも多いが、日本第1号の道の駅である掛合の里においても、未だ大規模改修はしていない。

また、中国横断自動車尾道松江線の開通に伴う前面道路の交通量の大幅な減少などの周辺環境の変化、令和2年以降の新型コロナウイルス感染症の流行の影響による観光入込客数の大幅な減少により、道の駅の経営状況に大きな影響がでている。

本市では令和3年に道の駅掛合の里の指定管理者が不在となり、直営管理への移行を余儀なくされた。施設老朽化、交通量の減少、コロナ禍の影響による道の駅の経営不振は、本市のみならず全国的な課題となっており、登録廃止となる道の駅も出てきている状況である。

国土交通省は、令和2年度から令和7年度を道の駅「第3ステージ」と位置付け、道の駅を核とした地方創生及び道の駅の持続可能な安定運営を目指した取り組みを推進するとともに、道の駅の防災拠点化を進めている。令和3年4月には、「掛合の里」、「さくらの里きすき」が防災拠点自動車駐車場に指定された。防災拠点化が進む道の駅に対して、市としてどのように対応していくかについて整理検討が必要になっている。

1-2. 目的

国の動向ならびに雲南市観光振興計画に基づき、市内の道の駅の活性化に向けた実行性のあるビジョンを作成することが、本業務の目的である。

各道の駅の個性や強みを整理し、本市が有する多様な観光資源と地域資源を有効に活用するために、ソフト面とハード面との両面で機能の再配置を検討する。さらに、道の駅の活性化策を通じて、道の駅を中心とした地域全体の魅力及び収益向上に資することがビジョン作成の狙いである。

令和4年度・構想

ソフト事業

R5	R6	R7
道の駅のビジョン&アクションプラン		
・市全体のビジョン ・各駅のビジョン&アクションプラン (3か年に道の駅運営者が取組むことを整理)		

令和5年度以降

この成果を運営指針として、**R5年度から始まる指定管理期間の施設運営に活かす。**
※経営が厳しい道の駅は、継続的に状況を確認し、必要に応じて支援

ハード事業

長期的な施策
施設の改修案(レイアウト)
(改修に関する優先順位) (優先順位が高い施設の概算事業費)

優先順位の高い道の駅から個々の計画(改修設計等)を進める。

第2章 道の駅の活性化に向けた基本方針

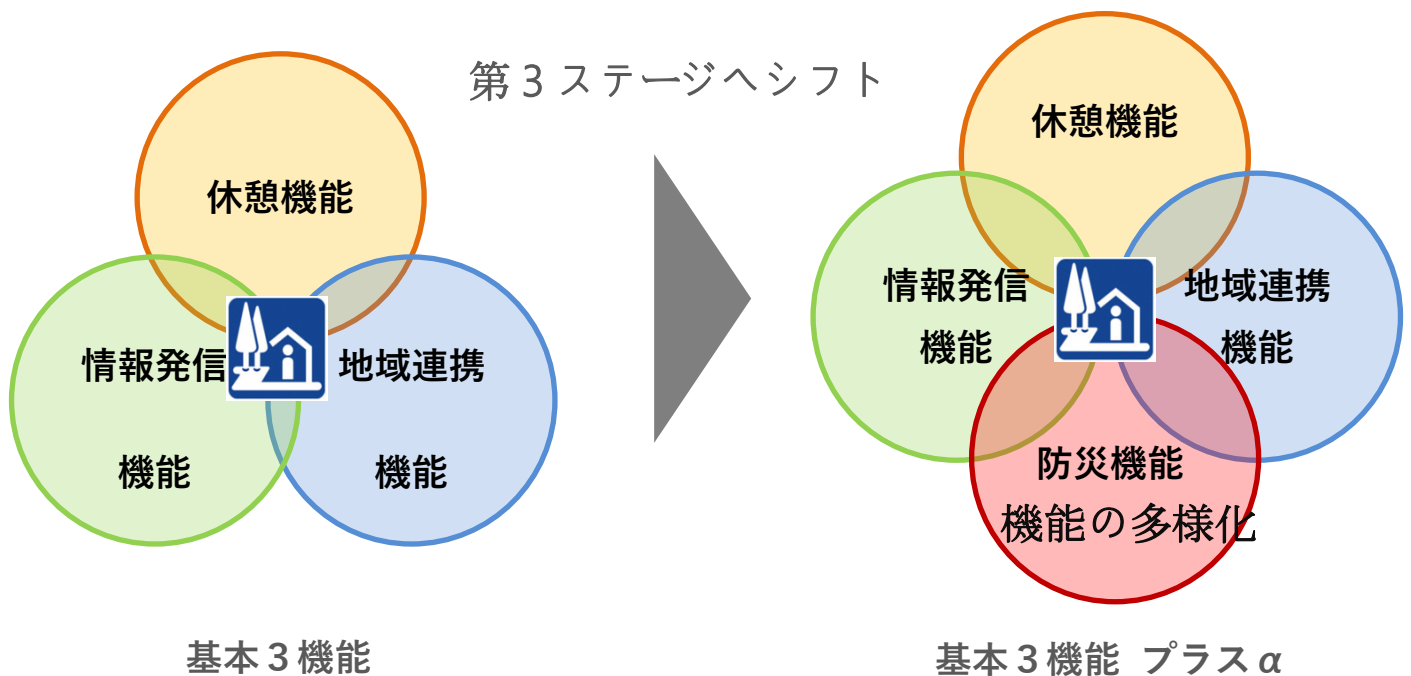
第2章 道の駅の活性化に向けた基本方針

2-1. 道の駅に求められている機能（国の状況）

「道の駅」は道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供と地域振興へ寄与を目的に、休憩機能・情報発信機能・地域連携機能により構成される施設である。「道の駅」は平成5年の制度開始以降全国各地に整備され、現在1,198駅（令和4年8月現在）が登録される。

他方、制度創設から四半世紀を経過し、道の駅に求められる役割は変化している。国土交通省では、設立以来の道の駅の役割を、第1ステージ「通過する道路利用者へのサービス提供の場」、第2ステージ「道の駅自体が目的地となる」を経て、新たに第3ステージ「地方創生・観光を加速する拠点」及び「ネットワーク化で活力ある地域デザインにも貢献」として位置付け、2020年に提言を行った。

本提言の中では、第3ステージの道の駅に求められる機能として、「観光や防災など更なる地方創生に向けた取り組みを、官民の力を合わせて加速すること」、「さらに『道の駅』同士や民間企業、道路関係団体等との繋がりを面的に広げることによって、元気に稼ぐ地域経営の拠点として力を高めるとともに、新たな魅力を持つ地域づくりに貢献する」ことが挙げられている。また、2025年に目指す3つの姿として、①「道の駅」を世界ブランドへ、②新「防災道の駅」が全国の安心拠点到、③あらゆる世代が活躍する舞台となる地域センターに、が示されている。



道の駅は第3ステージへ 多様化する「道の駅」の機能

2-2. 道の駅に求められている機能（防災機能の現状）

国土交通省では、近年の自然災害の頻発化・激甚化を踏まえて、道の駅の防災機能を強化する施策を推進している。国は防災対策として、道路管理者と道の駅設置者との災害協定の締結推進や、防災訓練の実施を進めており、また、道の駅設置者に対する防災対策支援として、トイレ・情報提供施設の耐震化、無停電化、貯水タンク・防災倉庫・防災トイレの設置、災害情報提供システムの設置を支援している。さらに、広域災害応急対策の拠点となる道の駅等について、災害時に防災拠点としての利用以外の禁止・制限等が可能となる防災拠点自動車駐車場の指定制度の創設や、都道府県が、市町村からの要請により、市町村管理道路の道路啓開・災害復旧を迅速に代行できる制度を創設する道路法の改正が令和3年4月に施行された。

本市では、前述の国の方針に合わせて、防災機能強化に向けて国や県と連携し、防災対策を推進している。道の駅は防災拠点としてますます重要になってきている。

市内の道の駅での防災機能に関する取組は以下の通りである。

市内の防災機能強化の現状

駅名	防災機能	
	指定等	設備
掛合の里	<ul style="list-style-type: none"> ・防災拠点自動車駐車場(国) ・避難退域時検査場所(原子力防災) ・災害時の物資供給等に関する協定 ・第1次防災拠点(県緊急輸送道路ネットワーク計画) ・指定避難所(市) 	<ul style="list-style-type: none"> ・貯水タンク ・非常用発電機 ・授乳室 ・防災トイレ ・シャワー
さくらの里 きすき	<ul style="list-style-type: none"> ・防災拠点自動車駐車場(国) ・第2次防災拠点(県緊急輸送道路ネットワーク計画) ・指定避難所(市) ・物資受入場所(市)(受援物資受入、応急仮設住宅などを検討中) 	<ul style="list-style-type: none"> ・貯水タンク ・非常用発電機 ・授乳室
おろちの里	<ul style="list-style-type: none"> ・第2次防災拠点(県緊急輸送道路ネットワーク計画) 	
たたらば壱番地	<ul style="list-style-type: none"> ・避難退域時検査場所(原子力防災) ・第2次防災拠点(県緊急輸送道路ネットワーク計画) 	



広域災害時の緊急作業車両基地

出典：国土交通省 HP



「掛合の里」での冬用タイヤ装着確認

出典：松江国道事務所 Twitter



災害時の仮設住宅

出典：国土交通省 HP

2-3. 上位計画の中での位置づけ

雲南市では令和3年3月に今後5年間の観光政策の方向性を示す第2期雲南市観光振興計画策定した。

本計画では「みんなで挑戦！雲南のほんものを活かした地域が潤う観光まちづくり」を計画の基本理念に掲げ、本市が有する多様な観光資源を有効に活用しながら持続的に発展する観光まちづくりを市民が一体となって進めることを目指している。これにより、令和7年度において観光入込客数123.3万人（現状値（R2）：98.6万人）、観光消費額31.5億円（同25.2億円）の実現を目指している。

本計画は4つの基本施策と8つの重点戦略で構成され、このうち、「重点戦略(7)観光施設や道の駅の魅力化」の基本事業の一つに「道の駅の魅力化」が位置付けられている。本計画では、道の駅の魅力化に向け、『それぞれの道の駅の立地や特色を活かしながら発信力を強化していくこと、観光スポットへ繋ぐ拠点としての機能強化を図ること、尾道松江線沿線の関係団体と連携した観光誘客の促進等を進めること』としている。



出典：第2期雲南市観光振興基本計画

2-4. 観光振興における道の駅の重要性

道の駅の第3ステージに「地方創生・観光を加速する拠点」としての機能が求められているように、全国的に観光振興における道の駅の重要性がますます高まっている。道の駅は市内の観光地へのアクセスポイントとして重要な役割を果たしており、道の駅の周辺環境整備やサービスの充実によって周辺の観光地・観光施設や商業施設が活性化し、市内全域の観光振興に大きな効果をもたらす。

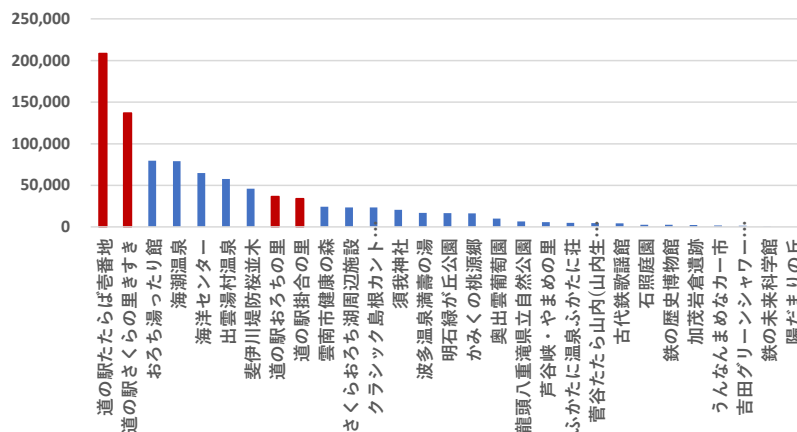
島根県観光動態調査結果をみると、本市の観光地・観光施設（全29地点）の入込客数順位は、1位が「たたらば壺番地」、2位が「さくらの里きすき」となっており、観光地・観光施設の中でこれら2つの道の駅が最も集客力を持っていることが分かる。また、「おろちの里」、「掛合の里」を含めて、道の駅全施設が10位以内にランクインしている。

以上から、観光動態調査の結果から市の観光での集客力を向上する上で、道の駅の入込客数を増大させることが最も効果的であることが分かる。観光振興において道の駅が重要な施設であり、道の駅を核とした周辺市町村からの誘客を図ることによって、市内全体の観光消費額の向上に資することができる。

雲南市の入込客数上位ランキング（令和3年）

順位	観光地・施設名	R3入込客数	R2入込客数	対前年増減
1	道の駅たたらば壺番地	208,460	237,781	-12.3%
2	道の駅さくらの里きすき	136,905	128,395	+6.6%
3	おろち湯ったり館	79,674	84,570	-5.8%
4	海潮温泉	78,990	70,500	+12.0%
5	海洋センター	64,872	48,273	+34.4%
6	出雲湯村温泉	57,675	60,641	-4.9%
7	斐伊川堤防桜並木	46,039	40,000	+15.1%
8	道の駅おろちの里	36,570	35,345	+3.5%
9	道の駅掛合の里	34,107	48,476	-29.6%
10	雲南市健康の森	24,368	22,167	+9.9%

R3入込客数

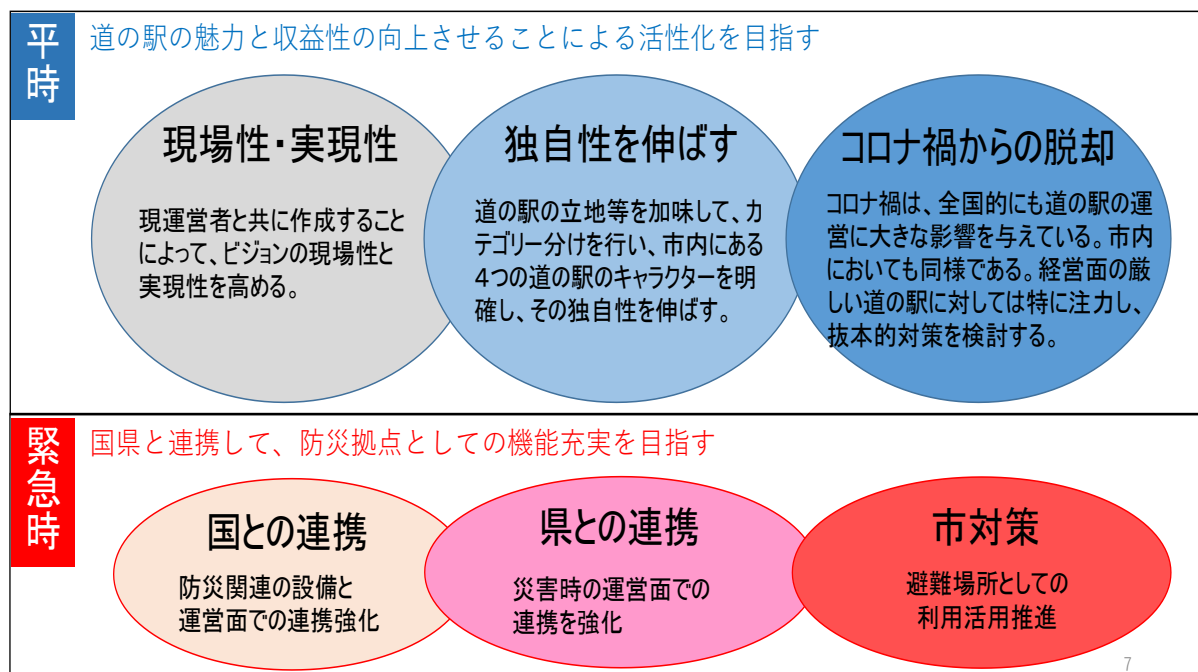


出典：令和3年島根県観光動態調査結果

2-5. 道の駅の活性化に向けた基本方針

本ビジョンは、従来まで求められてきた道の駅の基本機能を強化するとともに、第3ステージの道の駅に新たに求められる機能として防災機能を強化する、という基本方針のもとに、道の駅の活性化に向けたビジョンとアクションプランを策定する。

基本機能の強化は、平時における道の駅の魅力と収益性を向上させることによる活性化であり、防災機能の強化は、緊急時における防災拠点としての機能充実である。



<運営体制の検討について>

道の駅「掛合の里」は、令和3年度からそれまでの指定管理者が撤退したため、直営（業務委託方式）になっている。コロナ禍に起きた事態であり、道の駅の一律、0円指定管理を維持すべきかが課題となった。この件は道の駅のみならず他の商業的な指定管理全体に波及することから、行財政改革推進室、産業施設課を中心に検討が進められているところである。

現状検討状況にあるため、本ビジョンは、現管理者が継続して運営することを想定し作成している。

第3章 道の駅の現状と課題

第3章 道の駅の現状と課題

3-1. 観光入込客数の推移

1) 掛合の里

令和元年以降、観光入込客数の減少が続いている。令和4年の観光入込客数は、令和3年に比べ17%の減少となった。イベントなどでは集客できているものの、4つの道の駅で唯一、飲食店が再開できておらず、集客面での課題が大きい。運営面での抜本的な対策が必要である。

2) さくらの里きすき

令和4年の観光入込客数は、令和元年の8%減にとどまり、新型コロナウイルス感染症の影響による増減は比較的少なかった。地元客やビジネス客が多いことがその要因と考えられる。

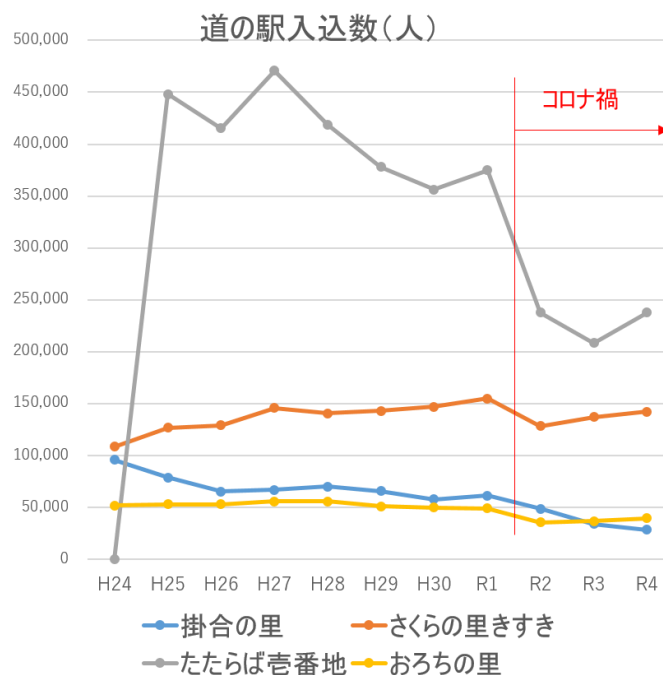
3) おろちの里

令和4年の観光入込客数は、令和3年に比べ8%の増加となったが、回復基調としては弱い。4つの道の駅のうち、平均して最も観光入込客数が少なく、集客面での課題解消に向けた抜本的な対策が必要である。

4) たたらば壱番地

高速道路のサービスエリア的な立地の特性上、旅行需要の動向に左右されやすい。4つの道の駅のうち、新型コロナウイルス感染症の影響による減少幅が最も大きかったが、令和3年から令和4年にかけては14%の増加となり、急速に回復した。

道の駅の観光入込客数の推移



	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R4/R1	R4/R3
掛合の里	95,865	78,675	65,223	66,672	69,997	65,532	57,827	61,212	48,476	34,107	28,318	46%	83%
さくらの里きすき	108,475	126,823	128,987	145,772	140,615	142,944	147,095	154,837	128,395	136,905	142,025	92%	104%
たたらば壱番地	0	448,397	415,249	470,632	418,794	378,227	356,304	374,698	237,781	208,460	237,708	63%	114%
おろちの里	51,922	52,955	53,160	55,897	55,635	51,018	49,875	49,027	35,345	36,570	39,382	80%	108%

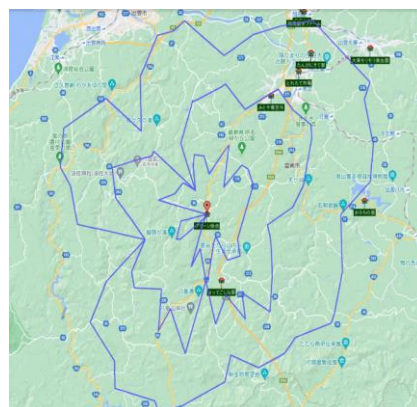
3-2. 商圏人口及び交通量

1) 掛合の里

足元商圏（日常の買い物エリア）と呼ばれる車 20 分商圏人口は 8,027 人。30 分圏まで拡大しても 26,676 人であり、商圏人口としては少ない。また、交通量も少ない

遠方からの誘客も見据え、道の駅の特徴を前面に打ち出すことによる「道の駅の目的地化」が必要となっている。

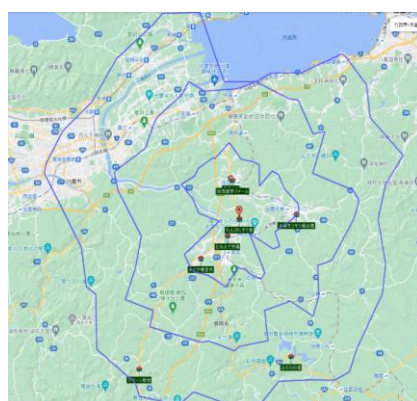
到達時間	10 分	20 分	30 分
世帯数	487	2,871	9,263
人口	1,336	8,027	26,676



2) さくらの里きすき

商圏としては市内で最も恵まれており、交通量も多く、市民の利用も多い。また、出雲市・松江市からアクセスしやすい位置に立地しているため、週末を中心として集客が期待できる。

到達時間	10 分	20 分	30 分
世帯数	6,002	15,431	57,680
人口	17,515	45,736	153,818

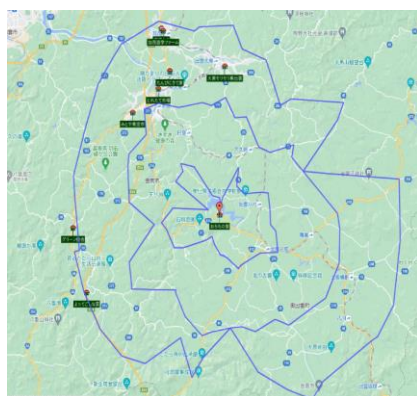


3) おろちの里

足元商圏の人口は 12,643 人、30 分圏まで拡大しても 38,499 人であり、商圏人口が少なく、また交通量も少ない。

掛合の里と同様、遠方からの誘客も見据え、道の駅の特徴を前面に打ち出すことによる「道の駅の目的地化」が必要となっている。

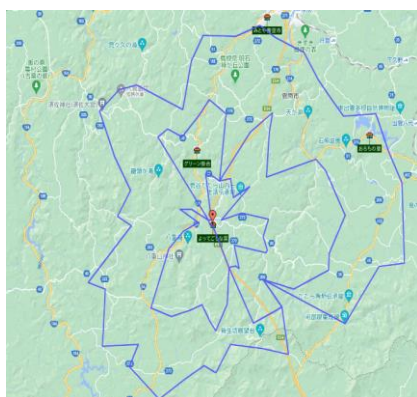
到達時間	10 分	20 分	30 分
世帯数	693	4,623	13,506
人口	1,842	12,643	38,499



4) たたらば畷番地

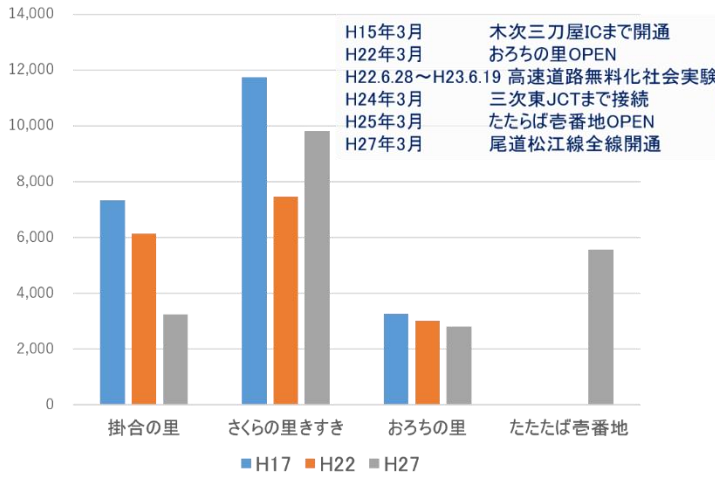
足元商圏は最も少なく、交通量も多くはないが、高速道路のサービスエリア的な立ち位置で、立ち寄り率が高く、市ならびに県の南の玄関口として機能し、利用者は市内最大となっている。

到達時間	10 分	20 分	30 分
世帯数	97	913	3,494
人口	241	2,430	9,676



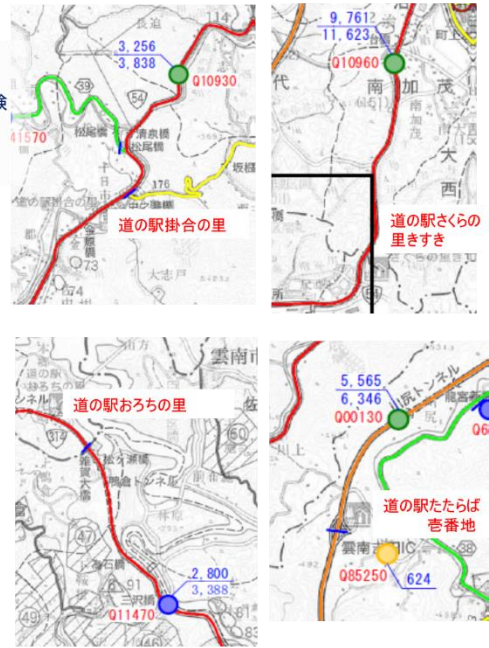
5)交通量

◆【昼間】12時間交通量(台)



道の駅	H17	H22	H27
掛合の里	7,327	6,140	3,256
さくらの里きすき	11,748	7,471	9,801
おろちの里	3,275	3,017	2,800
たたば壱番地			5,565

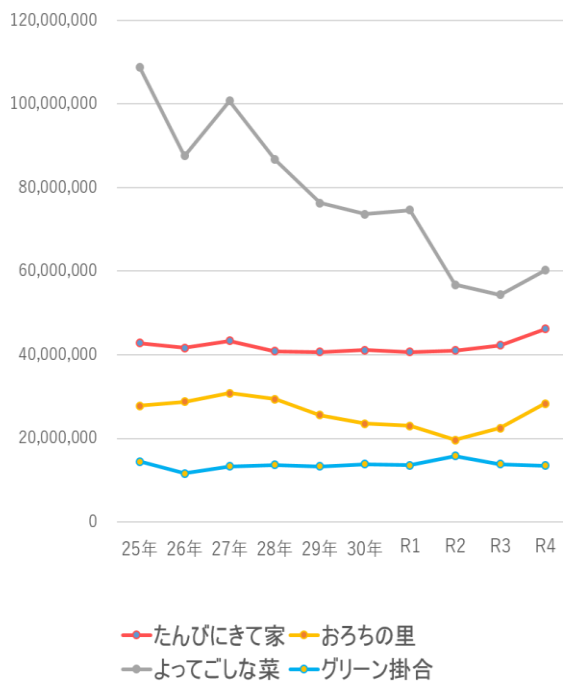
※R3年度のデータはR5年度中に公表予定



3-3. 道の駅の産直事業の売上推移

傾向としては、観光入込客数と同様にあるが、おろちの里については、ジビエやスイーツを強化するとともにポップのデザイン性を高めたことにより売上を伸ばしてきている。

◆道の駅の産直事業の売上金額



店舗名	店舗面積 (㎡)	R4年売上 (百万円)	コロナ前との比較 R4/R1	特徴	課題
グリーン掛合	59	13	99%	・4駅の中で、最も古い売場	・立地的に不利 ・施設老朽化 ・施設の一体化希望
たんびにきて家	62	46	114%	・一市二町の約40か所の集荷場所から集荷できる市内唯一の店舗	・売場が狭い。カートがない、杖や車いすの方の買物が不便。 ・花木の売場改善が要望されている
おろちの里	50	28	123%	・POPのクオリティが高い ・公式lineの活用 ・珍しい野菜、山菜、ジビエがウリ。 ※売上に土産も含む	・売場が狭い(特産と産直の両方を販売) ・冬季売上が激減 ・施設の一体化希望
よってごしな菜(吉田)	70	60	81%	・QR決済導入 ・弁当類の売上が高い ・奥出雲産直振興推進協議会から脱退	・売場が狭い。 ・直射日光や室温が高いため野菜の傷みが早い。

3-4 各道の駅の現状と課題

1) 掛合の里



(1) 集客減による経営悪化

掛合の里 (レスト&ショップ) は、松江自動車道の開通に伴い国道 54 号線の交通量が著しく減少したことや、新型コロナウイルス感染症の影響により、集客が減少し、経営が悪化したことから令和 2 年度末をもって指定管理者が不在になった。令和 3 年度から、地域づくり団体「Project U」を母体とする合同会社 Re が市の業務委託を受け運営しているが、イベントでは集客できるものの日々の集客に苦戦しており経営的には厳しい状況にある。同様に交流の館 (レストラン) も指定管理者が撤退、令和 3 年度から市直営管理となり、貸館として活用している。

今後の方向性として、現状、5 つの管理区分に分かれているが、それを統一し、効率化することが必要である。特に商業的施設 (レスト&ショップ、産直市、交流の館) では店舗の集約化や、レジ数の削減による人件費の圧縮等による経営効率化が必要になっている。

(2) 飲食店の再開

掛合地域には飲食店がほとんどなく、地域住民などから再開の要望が上がっているものの、採算面のハードルから再開に至っていない。令和 4 年度は、地元そば団体等の協力を得て、月 1~2 回程度の飲食営業を行いながら、飲食再開を目指していく。

(3) 交流の館の有効利用

現在は休止されているが、道の駅の中心部にあり、駅鈴や駐車場にも近い一等地であることから、用途変更も含めた有効利用策を検討する必要がある。

(4) 緑地公園のあり方の検討

中央にある池に水を引き込めていない。空池は高低差が大きく草刈りなどに手間がかかる。遊具が老朽化して使用禁止となっているものがある。様々な課題が顕在化している。また、駐車場よりも公園の低さが低くなっており、国道側から視認できず、公園があることが分からないといった指摘もある。

池については、現状を維持するならば、三刀屋川からポンプアップするための対応が必要になるが、一方、池を埋めてフラットにし、芝生公園にすれば、多用途な使い方ができるのではないかといった意見もある。遊具を更新するか、撤去するかについても様々な意見がある。公園のあり方については、イニシャルコスト、ランニングコストも見据えながら、住民ワークショップなどを行い、慎重に検討する必要がある。その際、植栽を間伐し利用空間を拓げることや、テントサイト、RVパークといった新たな機能の整備を検討することも考えられる。

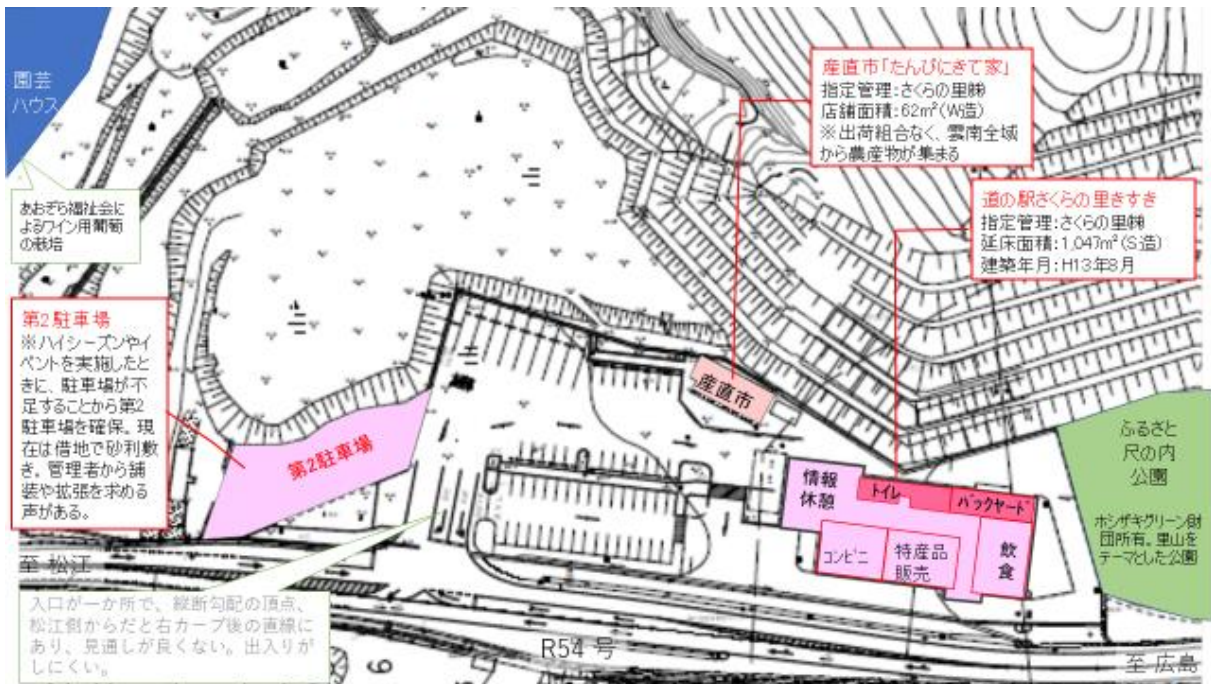


駅鈴前の駐車場には、普段から車両が駐車しているが、ショップ入口までは遠い。



国と市の所有内の境にあるモニュメントのところに除雪された雪が集まり、駅鈴側からレスト&ショップが見えにくくなる。

2) さくらの里きすき



(1) 集客減による経営悪化

新型コロナウイルス感染症の影響（集客減）は他の道の駅より少ないものの、燃油高騰が加わり、経営面に影響を与えている。

特色づくり、目玉商品づくりによる集客力の向上を目指す必要がある。具体的には、木次乳業のソフトクリームや、木工品等の地場産品を核として、地域色を前面に押し出すブランディングを検討する。

(2) 駐車場の拡張

ハイシーズンやイベント実施時など、すぐに満車となってしまうため、第2駐車場の整備を検討する必要がある。あわせて、大型車の利用が多く、特にセミトレーラー等の駐車マスがなく、大きくはみ出して駐車するケースも生じており危険な状態であることから、国土交通省と調整し、セミトレーラー用の駐車マスを整備する必要がある。

また、道の駅の多様なニーズに応えるため、EV急速充電器の設置や、車中泊にも対応できる設備の整備を検討する必要がある。



セミトレーラーをはじめ大型車両が多く駐車する

(3) 産直スペースの拡張

市内唯一、一市二町から農産物が集まる産直市で、阪急オアシスの出荷がとまってから、出荷される農産物が増えている。そういった条件にありながら産直のスペースが広いとは言えない。店舗の改修の必要性はあるが、現在の位置では背面が斜面で前面が国の用地となっており、大幅な拡張は難しい実情がある。

(4) 施設空間の活用状況、客導線

小売りのスペースが4駅で最大となっているが、特産売場とコンビニは売場の中に隙間が多い。反面、通路の特設売場には多くの商品が並んでいる。店内のレイアウト面、客動線の課題がある。また、倉庫スペースがなく、通路の一部を物置として使用しており、導線的に良い状況にはない。運営者からは倉庫の整備について要望がある。

また、隣接地にふるさと尺の内公園があり、近年、公園の再整備が進められているが、道の駅からの動線が十分でないため来場者の多くはその存在に気付かない。うまくつながれば利用客の滞在時間の増加につなげることできると考えられる。



商品が通路にはみ出す反面、売場の中は隙間が多い

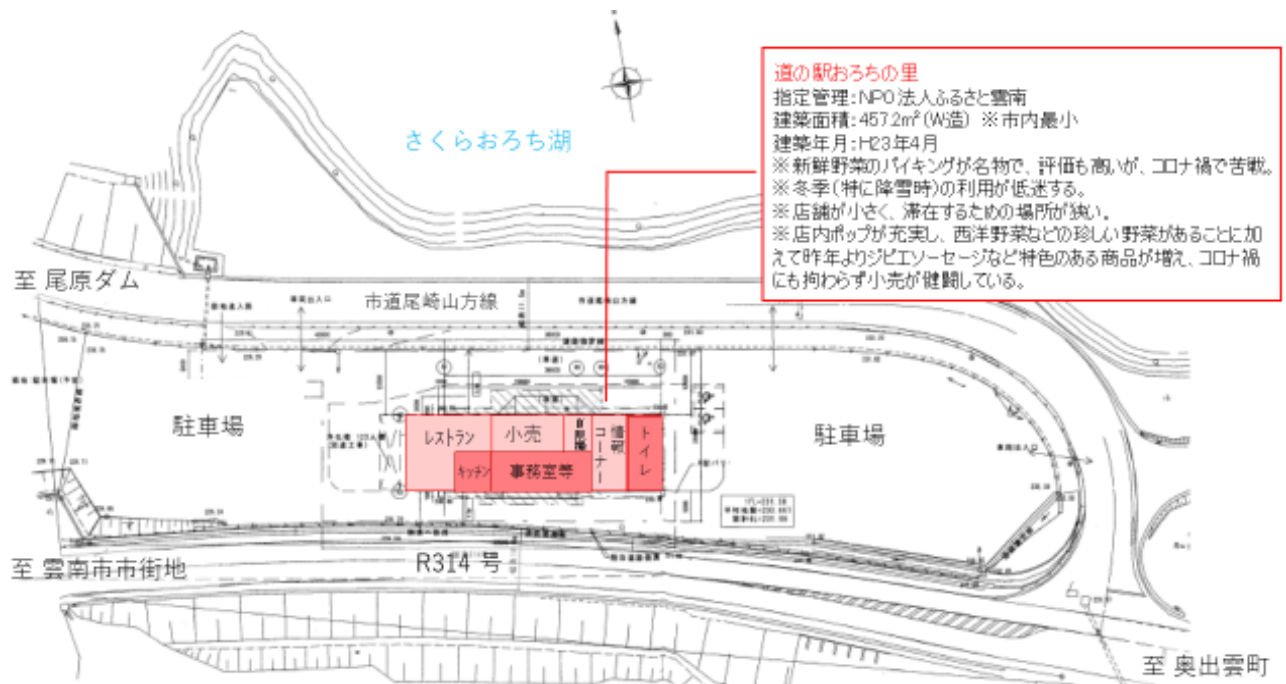
(5) 施設内が暗い

照明器具の更新を検討する必要がある。

(6) 「桜」の活用

「さくらの里きすき」との駅名であるにもかかわらず、敷地内に桜が植えられていないことから、今後、桜の木を植え、桜の木を活かしたイベントなども検討していく必要がある。

3)おろちの里



道の駅おろちの里
 指定管理：NPO法人ふるさと雲南
 建築面積：457.2㎡(W3造) ※市内最小
 建築年月：平成28年4月
 ※新鮮野菜のバイキングが名物で、評価も高いが、コロナ禍で苦戦。
 ※冬季(特に降雪時)の利用が低迷する。
 ※店舗が小さく、滞在するための場所が狭い。
 ※店内ポップが充実し、西洋野菜などの珍しい野菜があることに加えて昨年よりジビエソーセージなど特色のある商品が増え、コロナ禍にも拘わらず小売が健闘している。

(1) レストランの採算性悪化

コロナ禍の来場者減に加えて、昨今の社会情勢により、レストランの食材の仕入れ値が高騰しており、経営を圧迫している。ジビエ・野菜を活用した新メニュー開発を検討する必要がある。一方で店舗内のテーブルクロスや、店内に沢山設置されている掲示物など、全体に安っぽく、色彩の統一感がないことも課題である。



【レストラン】クロスの色は寒々しく、下からビールケースが見えるなど細やかな配慮に欠ける。

(2) 地場産野菜の販売スペースの拡張

店舗が小規模であり、販売スペースが狭い。POPデザインには強みがあり、コロナ禍でも小売りは健闘している。農事組合法人からの豊富な地場産野菜を十分に活かすために、販売スペースの拡張を検討する必要がある。Instagramに加えて、公式LINEに取り組んでいる。



小売スペースが狭いため、袋詰めは隣の自販機コーナーで行う

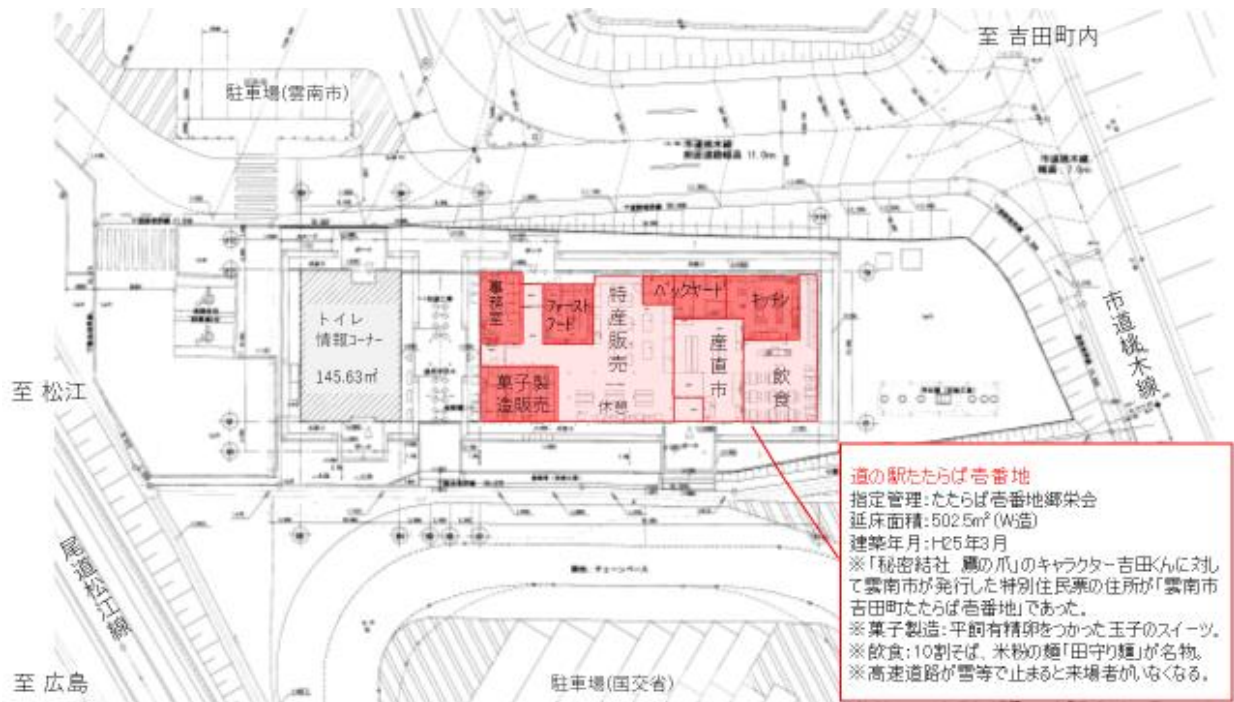
(3) 冬季の来訪者の激減

冬季は積雪により来訪者が大きく落ち込むことからレストランの営業を休止しているため、集客の代替策を検討する必要がある。



【小売店舗】POPが素晴らしい。

4)たたらば壱番地



道の駅たたらば壱番地
 指定管理:たたらば壱番地郷栄会
 延床面積:502.5㎡(W5造)
 建築年月:H25年3月
 ※「秘密結社 鷹の爪」のキャラクター吉田くんに対して雲南市が発行した特別住民票の住所が「雲南市吉田町たたらば壱番地」であった。
 ※菓子製造:平飼有精卵をつかった玉子のスイーツ。
 ※飲食:10割そば、米粉の麺「田守り麺」が名物。
 ※高速道路が雪等で止まると来場者がいなくなる。

(1) 集客減による経営悪化

立地特性上、新型コロナウイルス感染症の影響が特に大きい。一方で令和4年度になり、集客が戻ってきている。その中で収益性の高い目玉商品の開発を目指している。



目玉商品の10割そばが好評

(2) 滞在環境の整備

コロナ禍対応により、店内に滞在できるスペースは9席となっている。新型コロナウイルス感染症が5類になれば、座席数を通常に戻すことに可能性が高いが、現状においてもお昼前後には店内が多くの利用客で混雑し、密な状態になっている。滞在スペースは確保したいが、限られた施設空間の中で対応が難しい。屋外スペースを活用し、軒下空間の屋根の拡充などにより滞在スペースを確保することなどの検討が求められる。



店内の状況(現状9席のみ)

(3) 市外の観光案内への対応

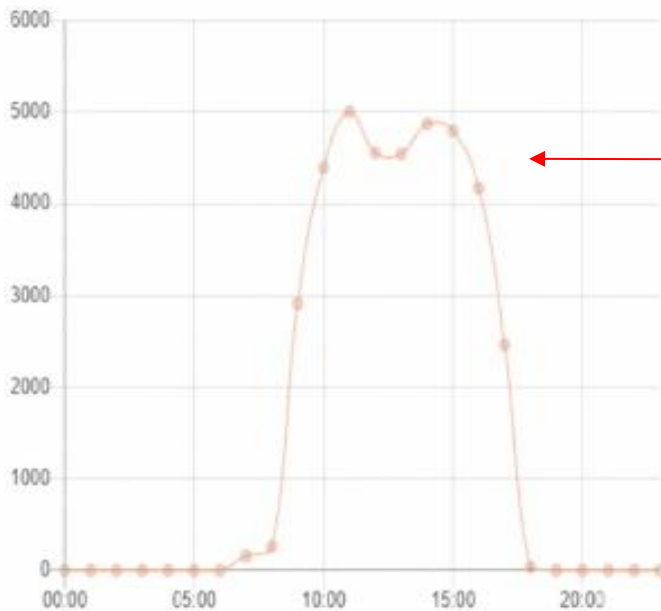
広島県との県境近くに立地しており、高速道路のサービスエリアとしての機能を有していることから、雲南市外に向かう観光客への案内を求められ、対応に苦慮するケースもある。観光協会との連携により、雲南市・島根県のゲートウェイに相応しい案内方法を検討する必要がある。具体的には、情報発信設備(映像設備など)の活用や、たたら製鉄関連コンテンツの展示を強化するなど吉田エリアの観光情報のPR強化が求められる。

(4) 駐車場の不足

国所有の駐車場スペース（チェーンベース）は、小型用駐車マス 29 台分と少ないため、すぐに満車となる。大型車の駐車マスに小型車が駐車し、トラブルになることも発生している。5月連休などは市の駐車場を含めて満車となる。駐車場が建屋を挟んで両側にあるため、交通誘導など、その調整が大変である。



チェーンベース(国所有)
小型車 29 台



ランチタイムに回転率が落ちると、チェーンベース
の駐車場がいっぱいになり、来場者が減少

時間ごとの来場者数

第4章 道の駅の全体ビジョン

第4章 道の駅の全体ビジョン

4-1. 全体ビジョンと方針

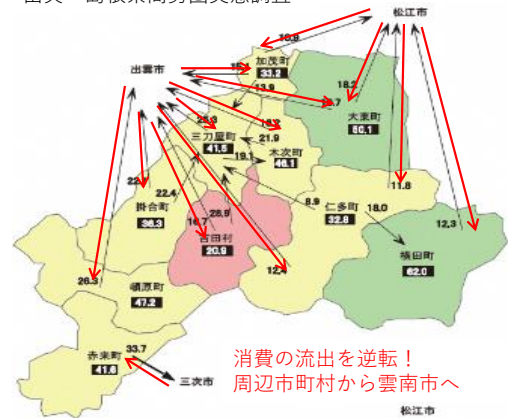
1) ビジョンと目標

道の駅を取り巻く背景、雲南市における道の駅の現状と課題を踏まえ、道の駅活性化に向けた全体ビジョンを「道の駅の魅力化による観光等誘客推進～周辺市町村から雲南市へ「消費の流れ」を作る～」に設定する。

本市の観光施設のうち、最も観光入込客数が多いのは「たたらば壱番地」であり、第2位は「さくらの里きすき」である。両施設は、広島方面、松江・出雲方面からの入り口となる場所に立地し、観光誘客・情報発信における拠点施設としての役割を持つ。また、「掛合の里」「おろちの里」は、立地地域の自然・文化・歴史・産業のガイダンス機能を有し、「たたらば壱番地」「さくらの里きすき」を補完する観光拠点としての役割を持つ。

これらを踏まえ、各道の駅の個性や独自性を磨くことなどにより、道の駅自体の目的地化を図り、松江市、出雲市といった周辺市町村からの誘客を実現する。また、道の駅を核に、周辺観光地との連携を強化し、市内全体の観光消費額の増加を目指す。3年後に観光入込客数を63万人にすることを目標とする。

出典：島根県商勢圏実態調査



【ビジョン】

道の駅の魅力化による観光等誘客推進

～周辺市町村から雲南市へ「観光消費の流れ」をつくる～

【目標】

観光入込客数 63万人／年の達成（現状値：45万人／年。R4年度）

2) 方針

道の駅の運営力強化と防災機能の強化に向けて、以下の基本方針に基づいて、ビジョン・目標を定める。

立地や特色を活かす

道の駅ごとに個性・独自性を追求

発信力を強化する

目玉商品を発信

隣接の観光スポットへ繋げる

周辺エリア等と連携協力

(1) 道の駅の運営力強化

道の駅連絡会議を開催し、道の駅ごとのビジョン等が実行されるよう支援並びに進捗管理を行う。必要に応じて専門家派遣などを行い、運営の改善に向けて継続的な支援を行う。

※掛合の里、おろちの里については継続して専門家派遣による支援を行う予定

(2) 道の駅の基本機能の充実・強化

① 休憩機能

快適なトイレ、授乳室を全駅に整備し、安心安全性・利用者の利便性を高める。(トイレは、さくらの里きすきで老朽化しており、授乳室はおろちの里、たたらば壱番地には未整備)

外構計画では、EV利用や車中泊ニーズに応えるため、EV急速充電器と車中泊エリアの整備を進める。(EV急速充電器はさくらの里きすきに未整備、車中泊エリアは全駅で未整備)

② 情報発信機能

地域情報発信のあり方を見直す。チラシや掲示物での地域情報発信がなされているが、様々な情報が無秩序・乱雑に発信されているケースがあり、整理が必要である。また、映像による観光情報などの発信について、映像コンテンツの充実強化、機器設備の見直しを行う。さらに、発信力強化に向けて、周辺観光地と連動したPRを積極的に実施する。

③ 地域連携機能

地域連携機能の充実・強化として、各道の駅の強みとなっている特産振興、産直振興を強化し、さらに、レストランでの地域食材の活用を促進することにより、地元農産物のブランド化や地産地消を推進する。また、イベント実施、隣接施設との連携を通じて、地域をネットワーク化し、地域活動の拠点としての道の駅の役割を強化する。

④ 産直事業の強化

平日の売上は地元客によるものになり、産直事業との相性がいい。道の駅においても市農林振興部の取組み(現場指導、講演会)と連動し、品揃え対策や売場改善等を推進する。

⑤ イベントの開催支援

固定客の来店回数の増加、新たな来客者の確保に向け、各道の駅でのイベントの定期開催を支援する。市内事業者等と連携したイベント開催など、道の駅の運営者に負担がかからない取り組みを検討する。

(3) 防災対応(災害時の拠点施設化)

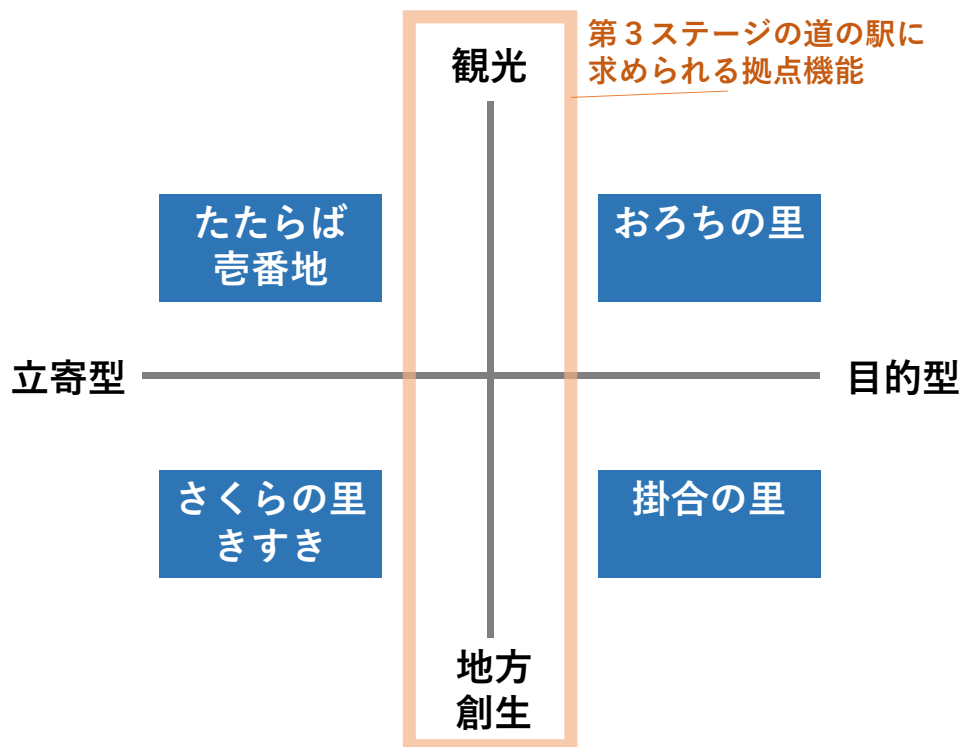
各道の駅は、市の防災力の向上を図るうえで有益な場所にあり、災害時の避難エリア等としての活用を進める。国県と連携して、防災拠点としての充実を目指す。

4-2. 市内4つの道の駅の機能の再定義

1) 道の駅第3ステージに向けた機能の明確化

前述のとおり、第3ステージ（2020年～）にある道の駅には「地方創生」・「観光」を加速する拠点機能としての役割が求められている。本市においても、各道の駅が立地する地域や道路利用者・観光客のニーズをとらえ、これらを充足するために必要な機能の再配置を進めることが求められる。そこでは、地域経営の観点に基づき、各道の駅の連携・機能分担を整理し、効率化を図る必要がある。

周辺人口・立地条件を鑑みると、「たたらば壱番地」・「さくらの里きすき」は立寄型、「おろちの里」・「掛合の里」は目的型と位置付けられる。「立寄型－目的型」の軸の上に、第3ステージに求められる拠点機能である「地方創生－観光」の軸を重ねた4つの象限に各道の駅を位置づけ、それぞれの役割・機能を明確化する。



2) 各道の駅の役割と振興の方向性

各道の駅の立地特性等を踏まえ、市内4つの道の駅の役割・振興の方向性を以下に整理する。

島根県の最南端にあり、吉田エリアの観光地に隣接する「たたらば壱番地」は地域外から活力を呼び込む「ゲートウェイ型」の施設と位置づけ、周辺観光地へのアクセス機能を強化する。

周辺人口が多く、また交通量が多い「さくらの里きすき」については、地域の元気を創る「地域センター型」の施設と位置づけ、ハード・ソフト両面での滞在環境の充実や防災機能の強化を図り、滞在機能を高めていく。

立地地域の人口が小規模かつ対面道路交通量が少ない「掛合の里」「おろちの里」については、それぞれの固有の特徴・強みで集客を図る「超目的地型」の施設と位置づける。それぞれの道の駅の特徴・魅力を顕在化し、来客動機となる強力なサービス・機会づくりを進める。



第5章 各道の駅のビジョンとアクションプラン

第5章 道の駅のビジョンとアクションプラン

5-1. 道の駅 掛合の里

(1) SWOT 分析

< 強み/Strengths >	< 機会/Opportunity >
<ul style="list-style-type: none"> ● 現運営者のイベント企画力。 ※そばイベントや牡蠣イベントの実施。 ※オリジナル商品の開発 ● 公園があり、広い敷地があり、ゆったりとした滞在が可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 龍頭が滝、八重滝といった周辺観光地への入込客数がある。 ● 周辺飲食店がほとんどないため飲食ニーズの潜在性がある。 ● 交流の館の活用可能性。 ● 周辺の蕎麦組合との連携可能性がある
< 弱み/Weakness >	< 脅威/Threat >
<ul style="list-style-type: none"> ● 飲食施設があるが、イベント的な飲食営業に留まり、恒常的な運営ができていない。 ● 横長の施設配置であり、産直、物販、公園の管理者が異なるため経営効率が悪い。 ● 施設、公園の老朽化、公園の視認性が悪い 	<ul style="list-style-type: none"> ● 前面交通量の減少、周辺人口の減少 ● コロナ禍による集客減 ● 燃料・資材等の高騰

道の駅掛合の里の強みは、現運営者のイベント企画力である。これまでも地元そば組合と連携した蕎麦提供イベントや、広島県呉市音戸町との交流事業として牡蠣イベントを開催してきた実績がある。ただし飲食事業がイベント的な飲食営業に留まっており、恒常的な運営ができていないことが弱みである。周辺には飲食店がほとんど存在しないため、恒常的な飲食営業が可能になれば飲食ニーズを取り込める可能性をもつ。脅威は、前面交通量の減少、周辺人口の減少であり、特定の強みで集客する「目的性」をもたせることが課題となっている。

(2) ビジョンと方針

道の駅掛合の里は、立地地域の人口が小規模かつ対面道路交通量が少ないため、固有の特徴・強みで集客を図る「超目的地型」の施設と位置づける。道の駅の特徴・魅力を顕在化し、来客動機となる強力なサービス・機会づくりを進めることが課題である。

【ビジョン】

「掛合の里」の新たな価値と役割を創造し、里の賑わいを再生する

【方針】

- ① 限定商品を生み出す道の駅
- ② 地域ニーズの掘り起こしと地域に必要とされる機能の確立
- ③ 地域連携によるイベント開催

(3) アクションプラン

① 「掛合う場所」として、連携を強化・新しい価値の創出により「ここにしかないもの」を生み出し続けるチャレンジ型の道の駅「掛合の里」

【内容】

- ・ 地域企業等との連携・チャレンジを仕掛け、道の駅をチャレンジの舞台・実戦場となる。
例) 「麺」×「地域資源」、「企業」×「企業」、「掛合」×「音戸町」、「駅」×「中学生」
- ・ 企画力を活かして限定コラボ商品を生み出す(●×▲。今までになかった、意外な…。)
※ 店舗販売のみならず、ギフト、ふるさと納税商品などについても推進する。

【期間・スケジュール】

令和5年度 : 道の駅主催のイベントを定例化(牡蠣祭、蕎麦祭)に合わせた試行を継続。
令和6年度~ : 限定商品の複数展開。

【期待される効果】

- ・ 道の駅利用を「目的化」するコンテンツ創出による集客力、リピーター率の向上
- ・ 周辺観光施設(龍頭が滝、八重滝)と道の駅との相互の人流創出(食と観光の相乗効果)
- ・ 地域住民の活動機会の創出

【●×▲の例】

「掛合×蕎麦グループ」

- R4年11月中の土日に蕎麦を中心とした飲食営業・蕎麦打ち体験イベントを実施。その知見をもって、今後の継続的な飲食営業を模索する。



「掛合×地元メーカー」オリジナル麺

- 市内の食品メーカーと連携し、オリジナル麺を製造し販売。



「掛合×音戸町（牡蠣）」

- 2月に実施した広島県音戸町との恒例とのコラボ企画。



※ 以上の他、市街の道の駅との連携を企画する。現在、道の駅「ゆめランド布野」との連携を計画中。

② 地域ニーズの掘り起こしと地域に必要とされる機能の確立

【内容】

- ・ 地域に必要とされる機能の掘り起こしと、実現のために、地域ワークショップを開催する。
- ・ 特に、地域の中学校（掛合中学校）、高校（三刀屋高校掛合分校）の生徒が道の駅を利活用する仕組みを確立し、子どもたちの滞在拠点の創出、及び子どもたちが地域創生の活力となることを期待する。（「中高生のたまり場」として、中高生向けの月間チケット、年間チケット、夏休みの学習スペース開放等を企画検討する）

※ 令和4年11月に、道の駅の将来の姿を考える地域ワークショップを実施（38名参加）。掛合分校の生徒が参加し、地場産商品のPR強化といったアイデアや、子どもの遊び場としたいという地域ニーズ等が集まった。

【体制】

主 体： 雲南市

連携者： 地域住民、合同会社 Re、三刀屋高校掛合分校、掛合中学校

行政の役割： 地域ワークショップの主催

【期間・スケジュール】

令和5年度： 第1回WSで集まったアイデアの具現化に向けたWSを春・秋に開催。

令和6年度～： アイデアの具現化

【期待される効果】

- ・ 地域の魅力の顕在化
- ・ 地域住民の活動機会の創出
- ・ 周辺地域の住民による道の駅の消費喚起

開催日時
11.12(土)
13:00～15:00

魅力的な道の駅のすがたを一緒に考えよう
**「掛合の里」
ワークショップ**

場所
掛合の里
(交流の館)

① 掛合分校生による地域探求学習の成果発表
② テーマに分かれてグループ意見交換(ワールドカフェ)
③ テーマごとのアイデア発表

参加者募集

つかった野菜を
売って欲しいな

レストランで地元料理を
提供できないかな

子どもが
楽しんで学べる場がほしいな

道の駅であんなものが
買えるといいな

参加費：無料

問合せ先
雲南市役所 観光振興課
(道の駅再生推進室)
加藤 中智
TEL：0854-40-1054

③ 地域連携によるイベントの開催

【内容】

- ・ 蕎麦等のイベント定例開催。収益性向上に心掛ける。
- ・ 中学生とのコラボ企画として、開駅 30 周年イベントを企画。軽トラ市、緑地公園での収穫体験
- ・ 遊休施設となっている「交流の館」を活用し、物販・産直・地域拠点機能を集約するために、関係者の意見調整、合意形成を図り、施設改修に向けた機運を醸成する。

【体制】

主 体： 雲南市

連携者： 道の駅「掛合の里」活性化検討委員会、合同会社 Re、掛合町青空市協議会

【期待される効果】

- ・ イベントの定例開催による収益性の向上
- ・ 物販・産直部門の集約化による運営面での効率化・人的コスト削減
- ・ 顧客視点での視認性向上、駅鈴からのアクセス利便性向上による集客力の強化

「店舗前の賑わいを演出する仕掛けづくり」

- ・ 立寄率の向上のため、看板やのぼり旗を見直して視認性の向上を図る

のぼり旗の強化



看板があっても見えない

キッチンカーの設置など、店前の賑わいを強化

「遊休施設となっている交流の館の活用」



5-2. 道の駅 さくらの里きすき

(1) SWOT 分析

< 強み/Strengths >	< 機会/Opportunity >
<ul style="list-style-type: none"> ● 木次乳業製品を使用したソフトクリームなど、地域資源を活用した商品を販売。他にも、地域色豊かな商品がある（潜在力）。 ● 産直・飲食・物販+コンビニを一者が管理 ● 人が集まるのに便利な場所にあり、情報コーナーに人が滞在している。また、自主事業で書道展なども実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 出雲・松江との距離が近く商圏世帯、商圏人口が大きい。 ● 雲南加茂スマートICから近い。 ● 観光以外にもビジネス客の利用が多い。 ● 桜コンテンツによる観光集客力。 ● 産直品の潜在供給力が大きい。 (市内唯一、1市2町から集荷できる)
< 弱み/Weakness >	< 脅威/Threat >
<ul style="list-style-type: none"> ● 売場レイアウト、情報掲示、飲食メニューにおいて、地域色などのテーマ性が薄いため、商品の潜在力を活かしきれていない。 ● 産直・飲食・物販・コンビニが空間的に分かれているため、管理コストが大きい。 ● 駐車場が狭く、ピーク時に機会ロスする。 ● イベントを開催時しても、直ぐに駐車場が埋まってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 周辺人口の減少、近隣の競合店 ● 燃料・資材等の高騰 ● コロナ禍による集客減

道の駅さくらの里きすきの強みは、地元企業との連携により地域資源を活用した既存商品があることである。木次乳業製品を使用したソフトクリームは、地域色豊かな商品として、目玉商品として展開可能な潜在力をもっている。立地面では、人が集まるのに便利なロケーションであることも強みである。しかし、商品レイアウトや情報掲示の点で地域色を十分に発揮できておらず、商品の潜在力を活かしきれていない点が弱みである。出雲・松江との距離が近く、商圏世帯、商圏人口が大きいこと、雲南加茂スマート IC から近いこと、観光以外にビジネス客が多いことから、人々のたまり場として滞在を促し、地域交流の創出を期待できる。

(2) ビジョンと方針

道の駅さくらの里きすきは、周辺人口が多く、交通量が多いため、地域の元気を創る「地域センター型」の施設と位置付ける。ハード・ソフト両面での滞在環境の充実と防災機能の強化を図り、滞在機能を高める方針として、以下のビジョンと方針を設定する。

【ビジョン】

観光客と地域の人々が、居心地よくゆったり滞在できる道の駅

【方針】

- ① 周辺施設とも連動し、ゆったりと滞在してもらおう（滞在空間づくり&イベント展開）
- ② 地域色を押し出す新商品企画
- ③ 観光客をターゲットとする店舗ブランディングと情報発信

(3) アクションプラン

① 滞在価値の向上による長時間滞在の推進

<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人々のたまり場として座れるところを増やす（雲の輪シリーズのデモンストレーション設置、販売、情報コーナーの充実など） ・ 周辺施設の散策（ふるさと尺の内公園、尺の内農園などと連携） ・ 地域の出店団体と連携してイベント開催する （キッチンカー活用、桜まつり、スパイスフェア） ・ レストランの月替わりメニューの展開
<p>【体制】</p> <p>主 体： 雲南市・指定管理者</p> <p>連携者： 地元企業、地域の出店団体</p>
<p>【期間・スケジュール】</p> <p>令和5年度： 店内レイアウトの改善、第2駐車場の造成設計</p> <p>令和6年度： 周辺施設との連携、第2駐車場の造成工事</p> <p>令和7年度： 第2駐車場を活用したイベント開催の本格化</p>
<p>【期待される効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長時間滞在による消費喚起 ・ イベント開催による集客性・収益性の向上
<p>【イベント開催のイメージ】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="225 1196 547 1480">  <p>市内小学生の書初め展示</p> </div> <div data-bbox="572 1196 938 1480">  <p>スパイスフェア</p> </div> <div data-bbox="963 1196 1342 1480">  <p>ふるさと尺の内公園とのコラボイベント(うんなん幸福マルシェ)</p> </div> </div>
<p>【雲の輪（UNNAN WOOD PROJECT）とのコラボ】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="204 1641 775 1951">  </div> <div data-bbox="775 1641 1342 1951">  </div> </div> <p>○ 地域産業とのコラボを目指し、イスやテーブル等、商品のデモンストレーションを駅内で行い、実際に座ってもらう。 ○ 同時に販売コーナーも設ける。</p>

② 地域色を押し出す新商品企画

【内容】

- ・ 木次乳業製品を活用したソフトクリームトッピング開発
- ・ 木次乳業製品と金時堂商品を活用したエスプレッソラテ開発
- ・ 雲南スパイスを活用したチキン開発、桜商品の充実等。

【体制】

主体： 指定管理者

連携者： 地元企業

行政の役割： 販売促進活動の支援

【期間・スケジュール】

令和5年度～ ： 新商品の企画販売、PR 力強化

【期待される効果】

- ・ 地域資源の押し出しによる地域の魅力の発信力強化
- ・ 消費喚起による売上向上
- ・ 地元企業との連携力強化



地元企業とのコラボ商品開発し、地域資源をPR



道の駅での地域資源をPRするフェア開催

③ 観光客をターゲットとする店舗ブランディングと情報発信

【内容】

- ・ 新商品と撮影したくなる看板の導入を企画。「映え看板」で顧客からの SNS 情報発信を期待
- ・ SNS (Facebook) 発信における効果的な写真撮影、POP 作成技術の強化
- ・ Google ビジネスを活用した発信力強化

【体制】

主体： 指定管理者
 連携者： 地元企業
 行政の役割： 販売促進活動の支援

【期間・スケジュール】

令和 5 年度～ ： POP 作成・写真撮影技術の強化、SNS 活用

【期待される効果】

- ・ 顧客からの情報発信による発信力強化
- ・ 情報発信力強化による集客力向上

インスタ映え看板



手づくり感のある良い看板だが..
 背景が映り込んでしまう



牛乳パックオブジェ

5-3. 道の駅 おろちの里

(1) SWOT 分析

< 強み/Strengths >	< 機会/Opportunity >
<ul style="list-style-type: none"> ● 主力コンテンツとしての田舎料理バイキング。観光客から高評価で知名度も高い。 ● 産直の農産物に多様性、希少性がある。 ● 農産物のPOPのデザイン性。 ● 「ジビエ」の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ● 野菜・田舎料理を求める広島都市圏の顧客が存在する。 ● ダム湖周辺で様々なスポーツ・アウトドアイベントが開催される。 ● 紅葉シーズンに奥出雲向けの来客が増
< 弱み/Weakness >	< 脅威/Threat >
<ul style="list-style-type: none"> ● 農産物の潜在供給力は高いが、施設の規模が小さく、十分に発揮できていない。 ● 滞在場所、滞在させるコンテンツが弱い。 ● 飲食メニューが観光客をターゲットとする高価格帯のものに限られている。新しいメニューづくりが進まない。 ● コロナ禍の影響を諸に受け、レストランの売上が半減。 ● スタッフの高齢化や人数不足により、営業日数、時間（11時OPEN～13時オーダーストップ）を減らしたため、売上が減少した。 ● 後継者の育成ができていない ● ドリンク、ファーストフードの需要に対応できない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 冬季の利用客の減少 ● 夏季においても熱中症に備えての外出抑制が報道されると来場者が減少する。 ● スタッフを集めるのに苦労する

道の駅おろちの里の強みは、主力コンテンツとしての野菜中心の田舎料理バイキングである。多様性・希少性のある農産物と、イノシシ肉を活用した料理は観光客から高評価であり、知名度も高い。その一方で、スタッフの高齢化や人数不足が弱みであり、営業日数・営業時間の減少を余儀なくされている。機会としては、野菜・田舎料理を求める山陽圏の顧客層が存在することであり、集客力向上の余地がある。冬季は利用客が減少し、集客対策が必要である。

(2) ビジョンと方針

道の駅おろちの里は、足元人口ならびに前面道路の交通量が少ない立地であるため、固有の特徴・強みで集客を図る「超目的地型」の施設と位置づける。道の駅の特徴・魅力を顕在化し、来客動機となる強力なサービス・機会づくりを進めることが課題である。尾原ダム水源地域ビジョンの基本方針である「さくらおろちの魅力を磨き、活かす」を考慮しつつ、さくらおろち湖が、観光の目的地になるために、食の面で貢献するとともに、アクティビティとの相乗効果を狙う

【ビジョン】

さくらおろち湖周辺の豊かな食材と郷土料理を楽しんでもらうことにより

さくらおろち湖全体の交流人口拡大に寄与する

【方針】

- ① 野菜・ジビエを活かした新メニュー開発によるコンテンツ力強化
- ② POP デザイン力を活かした SNS 活用強化による顧客拡大とリピート率向上
- ③ 周辺事業者との連携、地域資源の見える化

(3) アクションプラン

① 地元食材（野菜、山菜、ジビエ肉）の魅力最大化するレストランメニューと、地元こだわり商品の開発を通じた「さくらおろち湖エリア」の魅力発信

【内容】

- ・ 地元でとれる新鮮野菜、山菜、ジビエ肉など、豊かな食材を活用しそれをPRする。
- ・ 地元の農事組合法人より西洋野菜など珍しいものが入手できる、また、出荷できない野菜を格安で購入できる。ジビエ肉は近くにある処理施設、食肉製品製造業施設より年間を通じて手に入れられる。食材の調達については他のエリアにはない強力なポテンシャルがある。

【体制】

主 体： 指定管理者

連携者： 地元企業（農事組合法人、産直会員、ジビエ肉提供事業者）

【期間・スケジュール】

令和5年度～ ： 新メニュー開発、レストラン運営体制検討

【期待される効果】

- ・ 野菜・ジビエの魅力の発信力強化
- ・ 消費喚起による売上向上
- ・ 地元企業との連携力強化



季節の野菜いっぱいの田舎料理バイキング（出典：Okutabi）



地元でとれたイノシシでつくった料理

○田舎料理バイキングは、コロナ禍に大変苦戦をした。今後、提供方法に工夫をしながら営業をしていく。

○検討事項：提供方法・メニュー／料金／営業時間の延長／店の設えの修正／情報発信。

※農事組合法人は規格外が販売でき、レストランは安く野菜が手に入るという、WinWin の関係性を構築

○イノシシ肉を使っていることをほとんどPRできていないので、そこをPRする。

※イノシシ肉に関しては、以前より供給量が安定している。

② LINE 公式アカウントによる発信力の強化

【内容】

- ・ 現行の Instagram による発信力・POP デザイン力を活かし、LINE 活用により顧客ネットワークを構築し、顧客拡大とリピート率向上を図る。

【体制】

主 体： 指定管理者

連携者： 地元企業（農事組合法人、ジビエ料理）

【期間・スケジュール】

令和 5 年度～ ： LINE 公式アカウントの開設、会員制開始

【期待される効果】

- ・ 野菜・ジビエの魅力の発信力強化
- ・ 新規顧客の開拓による集客力向上
- ・ リピート率向上



特産品コーナー(売場のポップのレベルが非常に高い) 出典:うんなんエリア観光情報

L 道の駅おろちの里
公式LINEはじめました



友だち追加すると
産直野菜
無料プレゼント

特産物直売所の野菜の入荷状況や、
農家レストラン「ふるさと亭」の
季節メニューをお知らせします。
お得なクーポンも定期配信!



SNS 活用の発信イメージ

③ さくらおろち湖エリアのアクティビティ（スポーツ大会、体験活動）との連携強化。周辺MAP作成を通じたエリアとしての集客力向上

【内容】

- ・ さくらおろち湖周辺のスポーツ大会、体験活動との連携
- ・ 冬季の集客（スノーイベント）
- ・ 市域を超えた地域資源の見える化に向けて、地域ワークショップにより周辺MAPを作成する

【体制】

主体： 指定管理者

連携者： 地元企業、大会・体験活動実施団体等

【期間・スケジュール】

令和5年度～ ： 連携企画、MAP作成ワークショップ

【期待される効果】

- ・ アクティビティとの相乗効果による集客力の向上



キッチンカーによるジビエ商品販売(出典:道の駅おろちの里HP)

コンテンツ開発

アウトドアブランド・ショップを招聘しコンテンツを開発

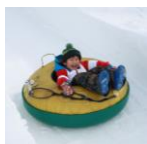
雪山

スノーチューブ

そり斜面

かまくら

雪像



目標設定

冬季（12月～2月）来客数

各月 3,000人

5-4. 道の駅 たたらば壺番地

(1) SWOT 分析

< 強み/Strengths >	< 機会/Opportunity >
<ul style="list-style-type: none"> • 高速道路（松江道）沿線の立地で、来客数が大きく、売上も大きい。 • コロナ禍でもR4年以降は集客力の急激な回復基調にある。 • たたら文化のブランド力、知名度がある。 • 10割蕎麦、たまごスイーツなど地域資源活用したメニューがある。 • 高低差のある生産地からの集荷により、長期間に渡り旬の地産産野菜を提供する仕組みがある。 	<ul style="list-style-type: none"> • 他県からの来客が多く、島根の玄関口として市内へ誘客する潜在力を持つ。 • 吉田エリアへの観光情報を求めて来客する顧客が存在する。 • 吉田エリアの観光コンテンツ開発が進んでいる。（たなべたたらの里プロジェクト。近隣にフィールドアスレチックがオープン）
< 弱み/Weakness >	< 脅威/Threat >
<ul style="list-style-type: none"> • 3つの運営会社の連携体であり、一体感のある統一的なコンセプトを打出す力が弱い • 屋内にゆったり滞在できる環境が少ない。（店内の着席スペースが9席） • 屋外スペースの環境が悪く、快適な屋外滞在環境がない。 • 混雑時の駐車場の不足。 	<ul style="list-style-type: none"> • 隣接の道の駅「高野」が競合であり、異なる強みを押し出す必要がある。 • 高速道が積雪などにより通行止めになるとほぼ来場者がいなくなる。

道の駅たたらば壺番地の強みは、高速道路（松江道）沿線の立地で、来客数が大きく売上も大きい点である。コロナ禍においても令和4年以降は集客力の急激な回復基調にある。吉田エリアの道の駅として、駅名にもなっているようにたたら製鉄文化のブランド力を有し、その知名度も高い。弱みは主に施設面として、屋内にゆったり滞在できる環境が少なく、屋外スペースにも快適な滞在環境がない点、混雑時に駐車場が不足する点である。機会としては、他県からの来客が多く、島根の玄関口として市内へ誘客する潜在力を持っている。また、吉田エリアの観光コンテンツ開発が進んでおり、民間企業との連携によって大きく集客力を図る余地がある。

(2) ビジョンと方針

島根県の最南端にあり、吉田エリアの観光地に隣接する「たたらば壺番地」は地域外から活力を呼び込む「ゲートウェイ型」の施設と位置づけ、周辺観光地へのアクセス機能を強化する。

【ビジョン】

雲南市への玄関口としての機能強化

【方針】

- ① 市内事業者の連携によるオリジナル商品開発
- ② 吉田エリアの観光情報 PR を核にした市内観光施設への誘客力強化
- ③ 回転率向上と滞在の快適性向上を両立する滞在空間の創出

(3) アクションプラン

① 市内事業者の連携によるオリジナル商品開発

【内容】

- ・ 目玉商品の企画として、テナントとの協議を通じて「たまご」をテーマとする新商品企画を検討。（たなべたたらの里・木村有機農園、米粉を活用したスイーツ開発。）
- ・ 酒造メーカー、菓子店等とのコラボによるオリジナル商品の検討。

【体制】

主 体： 道の駅の各テナント

連携者： 市内事業者

【期間・スケジュール】

令和5年度～ ： 新商品企画開発

【期待される効果】

- ・ 新商品による集客力の向上



出雲蕎麦(10割)に、地元産のたまごをつかったスイーツと目玉商品が揃っている

② 吉田エリアの観光情報 PR を核にした市内観光施設への誘客力強化

【内容】

- ・ 観光協会と連携した情報発信コーナーの充実、企画。市内観光情報の映像上映。
- ・ たなべたたら山と連携した吉田エリアの観光情報の PR 強化。（アスレチックへの家族連れ観光客の誘客等）
- ・ たたら製鉄関連コンテンツの企画と展示（たたら製鉄の紹介パネル、ケラの展示等）
- ・ 月定例の「いちばんちの日」の新聞折込チラシを活用し、観光情報の PR を検討。

【体制】

主体： 指定管理者・観光協会

連携者： 地元企業

【期間・スケジュール】

令和5年度～： 観光情報 PR 強化（吉田エリアの観光スポットの PR）

【期待される効果】

- ・ 新規顧客の開拓による集客力向上
- ・ リピート率向上



R5年春 菅谷たたら山内の全面改修が終了



R5年春 フィールドアスレチックがオープン

※ 令和5年は、吉田エリアの観光スポットのPRが特に必要となる。道の駅に来た人に、興味関心をもってもらえるよう情報発信を行う。

- ・ たたら関連の企画展示
- ・ イベントや観光施設の情報をPR（チラシ、ポスター、SNSなど）



情報コーナーでの映像発信

③ 回転率向上と滞在の快適性向上を両立する滞在空間の創出

【内容】

- ・ 屋外庇を増設し、軒下での快適な屋外滞在スペースの確保を検討する。
- ・ 屋内の座席数が少ないため、コロナ禍で縮小していた座席数を見直し、屋内滞在スペースを拡充する。
- ・ 消費喚起・回転率向上に資する適切な滞在空間となるよう、店舗の視認性や導線に配慮する。

【体制】

主体： 市・指定管理者

【期待される効果】

- ・ 購買力強化
- ・ 回転率の向上



滞在空間の少ない環境を改善する

第6章 施設整備の方針

第6章 施設整備の方針

6-1. 施設改修に向けた考え方

(1) 平時と緊急時の二つの状況での機能向上を推進するものとする。

建物の改修に際しては、集客数の向上が図れ、国の要請である防災拠点化をすすめるとともに今の時代にマッチし、収益性をあげるための改修を目指す。

1) 集客数の向上、収益性をあげる施設改修

【店舗の集約・一元化】

交通量が減少する中で、店舗ごとにレジがあるとその分、人件費が増える。あるいは人件費を抑えるため営業時間が短くなる。運営コスト縮小のため可能な限り店舗の一元化が必要になっている。また、一面で売場面積が増えることにより、売場効率が高まり、売上増にも貢献する。特に売場面積も建物自体の小さい「おろちの里」は店舗集約が必要である。

駅名	施設面積(m ²)		売場合計(m ²)			
		内訳	特産 売場	産直 売場	コン ビニ	運営者意向
掛合の里	1,478	523.68m ² (レスト&ショップ) 174.64m ² (産直市) 516.16m ² (交流の館) 263.64m ² (駅鈴)	199	140	59	売場集約を希望
さくらの里 きすき	1,109	1047m ² (道の駅) 62m ² (産直市)	407	180	62	165
おろちの里	457	457.2m ² (道の駅)	50	50		売場集約を希望
たたらば 壱番地	648	502.5m ² (地域活性化施設) 145.63m ² (休憩施設)	150	80	70	

【駐車場の拡充】

駐車場については、ピーク時や催事をしたときにも駐車できる広さを確保すべきである。また、国の所有する駐車場では営業行為ができないため、観光バスが予約して駐車できる場所がなく、キッチンカーによる営業もできない。市所有に駐車場が賑わいづくりには必要である。

【催事場所の確保】

催事は収益と賑わいづくりに直結するので、出店がしやすい環境をつくる必要がある。特にキッチンカーは市内事業者においても所有が増えているので、設置できる環境を整備することが必要となっている。

【滞在価値の向上】

イスなどの休憩スペースをつくる。利益性の高いファーストフードなどの気軽に食べられるメニューの提供を推進する。ペットとともに旅行する人が増えてきているので対応できるようにする。また、隣接している公園があるが、来場者が園地を認識できず利用されていない状況にあるため、そこをつなぐアクセスの改善も必要である。

2) 防災機能を充実させる施設改修

【防災機能の強化】

雲南市は、令和3年7月豪雨災害で大きな被害を受けた。また、中国電力(株)島根原子力発電所の30キロ圏に一部入る自治体でもある。国がすすめる道の駅防災拠点化と連動し、防災機能を強化する必要がある。

【集客・避難場所の確保】

特に、防災面で重要な道の駅となる「掛合の里」、「さくらの里きすき」については、芝生広場を充実させることで、災害時には「防災」に利用できる「防災公園」とし、平時には地域住民の憩いの場として利用できる「芝生公園」とする。

【物資受入場所の設置】

大規模な災害が発生した場合、被災者は家屋の損壊、倒壊などにより住宅を失う。市は被災者に対し、ライフライン、道路交通、生活環境の安全性や利便性が確保されている、応急的、一時的な住宅を確保する必要がある。

また、大規模な災害が発生した場合、全国から大量の支援物資が届けられるため、物資の搬入、荷捌き、分類、保存、配分が必要となるが、市としては仮設ハウスを設置して、物資を受け入れる想定で受入場所を確保する必要がある。

特に、防災面で重要な道の駅となる「さくらの里きすき」については、高台にあり、地盤も堅牢であり、国道に面し通勤通学など生活面での利便性も高いことから、災害時には「防災公園」に併せ、物資受入場所とする。

3) その他

【看 板】

看板のロゴや色など、施設内でバラバラになっている駅がある。改修する場合には統一をすすめる。また、看板を改修する場合には、前面道路の走行車両から視認性を向上させるようライトアップを含め工夫する。



ロゴの統一が必要

(2)施設改修にむけては優先順位を決める

当市は道の駅を含め多くの観光施設を有している。老朽化対策や人口減少が進む中での整理統合も検討しなくてはならない施設もある。再整備には多額の費用が必要になることから優先度を決め、適切に進めていく必要がある。

再整備の優先度の設定とその理由

道の駅	開設年	優先度案	理由
掛合の里	S63年 (34年)	2	<p><施設></p> <ul style="list-style-type: none"> ・R4年の集客数で4駅の中で唯一減り続けている。交通量、商圈人口ともに少なく、運営が最も厳しい。 ・施設配置の観点で、メインの駐車場のある駅鈴前からレスト&ショップへの集客することが物理的に難しい。 <p>⇒これらの課題をクリアするためにはハード面のテコ入れ必須であり、また、最も老朽化していることもあり優先順位が高いが、まずは施設改修を見据えてどのような運営をするのか基本構想を立てる必要がある。</p>
			<p><緑地公園></p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅から見えにくいので、来場者が公園を認識できない。遊具等も老朽化しており、集客につながらない。 ・イベント時の駐車場が不足している(既存駐車場が狭いため)。 ・広域防災での利用が期待されている(既存駐車場が広くないため)。 <p>⇒公園中央の池を埋める場合、多くの土量が必要になるが、近隣において残土が大量に発生する公共工事が実施されているタイミングを見計らうことによって、コストダウンができる。</p>
さくらの里きすき	H13年 (21年)	1	<p><施設>国は駐車場、トイレを順次、改修する。国の計画が示されれば、協議を行い、産直市の拡張等を検討する。</p>
			<p><隣接地(借地駐車場など)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年3月に防災拠点自動車駐車場に指定されたため、災害時に国によって駐車場利用が制限されるようになる。市として防災面で重要な立地であるが避難利用ができなくなっている。 ・駐車場が不足しており、ハイシーズンやイベント時に不足する。また、観光バスの予約、キッチンカーなどの営業ができないので営業面で機会ロスをしている。令和4年より一部借地をして第2駐車場として利用している。 ・国として、セミトレーラー用の駐車場がないなど、駐車場に課題感をもっており、R6~7年ごろの駐車場改修を検討されている。 <p>⇒国の駐車場整備計画と歩調とあわせるとともに、市として防災面を考慮し、最優先で取組む必要がある。</p>
おろちの里	H23年 (11年)	3	<ul style="list-style-type: none"> ・施設が比較的に新しい。 ・脱炭素の観点で公共施設の再検討することにあわせて検討。
たたらば壱番地	H25年 (9年)		

以上のように、「掛合の里」と「さくらの里きすき」は、広域災害に対する防災拠点となる立地・土地条件を有しており、防災面での機能整備が既に進行している。市としてもこれら2つの道の駅を防災公園とする方針で事業を進める。

6-2. 道の駅の防災機能

自然災害の頻発化・激甚化により、道の駅の防災機能の重要性は高まっており、第3ステージの道の駅の機能としても「防災」がキーワードとなっている。国土交通省が推進する防災対策方針にあわせて当市でも国や県と連携して防災機能強化を推進しているところである。

道の駅は、防災上の役割をいくつも重層的に担うことになる。複合的な災害が発生した時の対応や、車中避難など避難ニーズの多様化に対応するためにも、道の駅の防災機能強化が期待されている。

現在までの市内の道の駅での防災上の指定の状況を以下で具体的に説明する。

◆ 道の駅の防災機能

市内道の駅における防災上の指定の状況。道の駅は、防災上の役割を幾つも担うことになっている。

- ①防災拠点自動車駐車場(国)
- ②避難退域時検査場所(原子力防災)
- ③災害時の物資供給等に関する協定
- ④第1次防災拠点(県緊急輸送道路ネットワーク計画)
- ⑤指定避難所(市)

<防災設備>
・貯水タンク・非常用発電機
・防災トイレ・シャワー
・授乳室



- <防災設備>
・貯水タンク・非常用発電機・授乳室
- ①防災拠点自動車駐車場(国)
 - ④第2次防災拠点(県緊急輸送道路ネットワーク計画)
 - ⑤指定避難所(市)
 - ⑥物資受入場所(市)
(受援物資受入、応急仮設住宅などを検討中)

- ②避難退域時検査場所(原子力防災)
- ④第2次防災拠点(県緊急輸送道路ネットワーク計画)

○「掛合の里」、「さくらの里きすき」は広域的は防災上、特に重要であるが、駐車場の広さが十分ではない。
○複合的な災害が発生した時の対応や、車中避難など避難ニーズの多様化に対応するためにも、道の駅の防災機能強化は期待されている。

1) 防災拠点自動車駐車場(R4年3月指定)【掛合の里、さくらの里きすき】



- 災害時に防災拠点としての利用以外を禁止・制限が可能



災害対策
Disaster Management


利用の禁止・制限の際に設ける標識



道の駅を拠点として活用した災害応急対策

- 災害時に有用な施設等の占用基準を緩和

- 道路管理者が隣接する地域振興施設等の所有者と協定を締結し、災害時には一体的に活用可能



炊き出しの様子

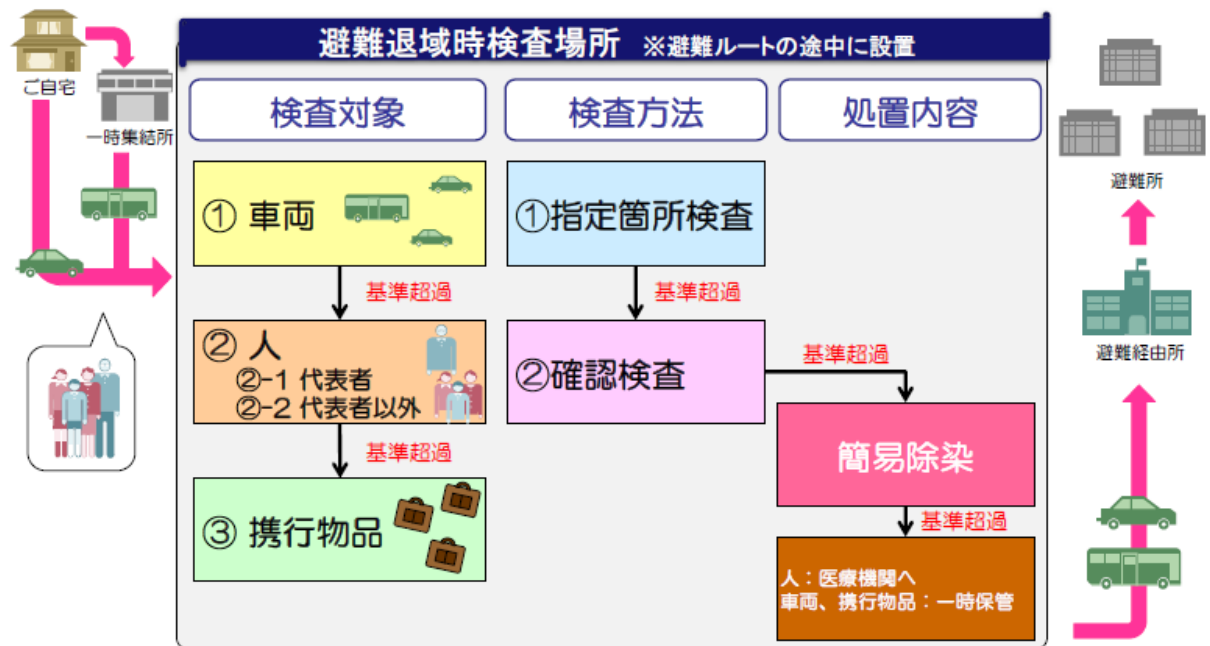
「防災拠点自動車駐車場」の指定について
(出典：国土交通省報道発表資料)

国の権限において広域的な災害応急対策を迅速に実施するため、指定した自動車駐車場の災害拠点としての利用以外を禁止・制限できるようになる。

※ さくらの里きすきは市所有駐車場がない。駐車場の利用の禁止・制限になると市民の一時的な避難ができない可能性がある。立地的には河川の増水時などの避難場所として有用な場所でもある。

2) 避難退域時検査場所【掛合の里、たたらば吉番地】

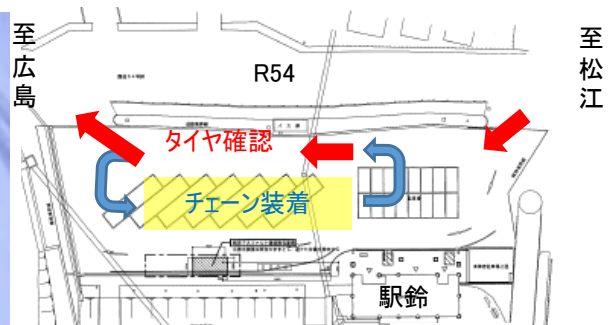
「島根県避難退域時検査場所及び簡易除染実施計画（H29年3月）」に基づき、原子力災害時に放射線測定器により車両等を検査し、基準値を超えた場合、簡易除染を行う。



避難退域時検査(出典:雲南市広域避難計画【概要】)

3) 災害時の物資供給等に関する協定【掛合の里】

豪雪などの災害が発生した際に、被災者に食料品や飲料品を提供することについて、令和3年12月に中国地方で初めて国交省、道の駅「掛合の里」、雲南市の3者で協定締結された。



「掛合の里」での冬用タイヤ装着確認の様子
 <松江国道事務所ツイッターより>

4) 第1次、第2次防災拠点(県緊急輸送道路ネットワーク計画)

【(第1次)掛合の里、(第2次)さくらの里きすき、おろちの里、たたらば壱番地】

県は防災上重要な拠点を、1次～3次の防災拠点として定めている。

【第1次】災害時において広域支援部隊の集結の場所。県内の道の駅では掛合の里が唯一。

【第2次】救援物資等の備蓄拠点または集積拠点。



凡例：■ 5.0～10.0m未満の区域

※島根県洪水浸水想定区域(想定最大規模)

5) 指定避難所

【掛合の里、さくらの里きすき】

被害を受けた市民や、被害を受ける恐れのある市民が避難する場所で、安全性が確保され、かつ避難者を一時収容・保護し、一定期間生活することを想定した施設(市指定)。

6) 物資受入場所(市として検討中)【さくらの里きすき】

応急仮設住宅とは、大規模災害により住宅を失った被災者に対して提供される、応急的、一時的な住宅のことで、市町村の責務として建設予定地を確保しなくてはならない。

候補地の条件としては、

- ライフラインや道路交通が確保されている
- 生活環境の安全性・利便性が確保されている
(2年間程度の生活に耐えられるか。浸水、がけ崩れの可能性はないのか。)



災害時の仮設住宅(道の駅クロス10)

出典：国土交通省 HP

受援物資受入とは、大規模災害の発生した場合、全国から大量の支援物資が届けられるため、物資の搬入、荷捌き、分類、保存、配分が必要となる。

市としては、仮設ハウスを設置して、物資を受け入れる想定で、立地としては、安全性が高く、アクセスが良く、大型トラックの出入りがしやすいことが必要である。

「さくらの里きすき」は高台にあり、地盤も堅牢であるので、風水害や地震など安全性が高い。また、国道に面し、通勤通学など生活面での利便性も高い。2年程度にわたって利用する可能性のある応急仮設住宅の立地として、受援物資受入の立地として適正が高い。

仮設住宅建設予定地
(雲南市地域防災計画)

施設名
大東公園(野球場、多目的広場)
丸子山公園多目的広場
加茂文化ホールラメール(駐車場、広場)
加茂中央公園(多目的広場、野球場)
木次町民球場
木次健康の森(多目的広場)
明石緑ヶ丘公園(野球場、山村広場)
掛合運動公園(野球場)

6-3 各道の駅の施設整備の方針

1)道の駅 掛合の里



カテゴリー	平面計画上の課題点に対する対応策
防災公園	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅駐車場から緑地公園内に車両(大型車を含む)が入れるルートを作ることで、様々な災害時に対応できるようにする。 広域災害時には公園エリアが緊急車両の駐車スペースに利用できる。退域時検査(原子力)として活用する場合には除染作業などを公園も利用して実施することができるようになり、効率化が図れる。
観光	<p>【施設改修: 交流の館とレスト&ショップの一体化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 交流の館に小売りを統一することによって、駅舎からの客の導線をつくることができ集客に貢献する。あわせて、公園へのアプローチもしやすくなり、公園利用が増える。 産直と特産の店舗を集約することにより経営の効率化が図れる。 催事ができるデッキスペースを確保し、交流事業に活用する。 <p>【公園の改修】</p> <ul style="list-style-type: none"> 遊具等の新設、トイレの改修、RVパークエリアの設置により、公園の活用が増える。 池の埋立によって広々とした芝生広場になれば、様々な遊びができるようになり、集客につながる。貸出遊具、仮設プールによる水遊び、テントサウナなども検討できる。 駐車場を確保することでイベント時の臨時駐車場を確保。機会ロスをなくせる。 <p>※実施にあたっては発生土取得のタイミングや財源の状況を勘案しながら実施の時期を検討する。</p>
その他	<p>共同物流拠点(候補地) R4 年度実証実験実施</p> <p>※拠点として確定すれば、地域住民の生活維持に貢献する施設になる。</p>

□ 交流の館の改修と機能集約による効果の推計



現状	部門	年間売上	面積	売場効率
	産直	1,500万円	100㎡	15万円
	特産	2,000万円	130㎡	15万円

改築後	部門	年間売上	面積	売場効率
	産直+特産	6,000万円	250㎡	24万円

売場面積が大きくなることにより売場効率が上がるため売上額の向上が期待できる。

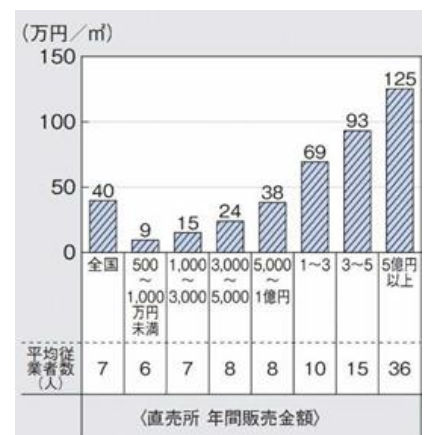
※250㎡になれば、6000万円程度（現状の1.6倍～1.7倍程度）の売上が期待できる。

また、売上向上効果の他に、以下の効果が期待される。

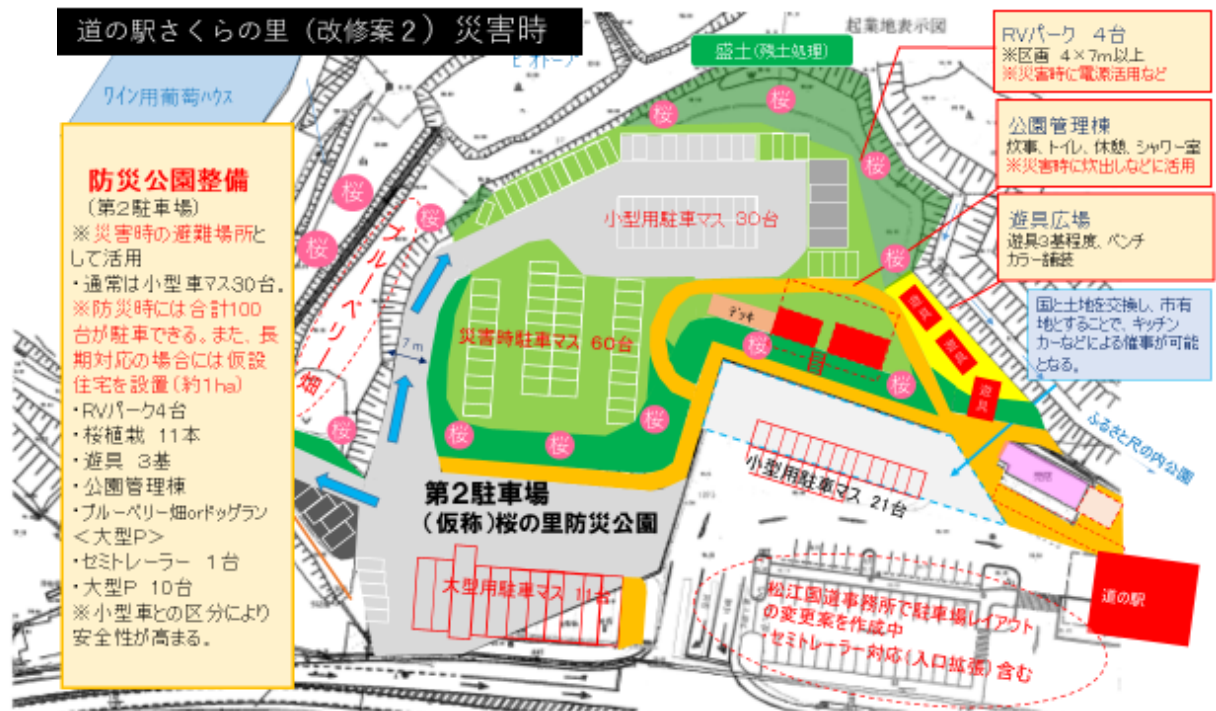
- メインの駐車場から近くなる。客動線も一本化でき、立寄率の向上が見込める。
 ※通常5～7%の立寄率のところ現状は2%程度、今後、5%程度を目指したい。
 ※新規顧客の確保のチャンスが増える。
- 営業時間が長くなり、販売チャンスが増える（冬季は、グリーン掛合での販売は1時半閉店）
- 端境期も仕入品でバランスを取り、店内の品揃えを充実させる。
- レジ数が減ることにより、人件費削減 ⇒ 運営団体一本化
- デッキスペースなどで、蕎麦打ち体験など様々な企画が展開できる。


<根拠：売場効率>

農林水産省の調査（平成21年度産地直売所調査）では、全国の直売所における売場効率（売場面積1㎡当たりの年間販売金額）の統計をとっており、年間販売金額が1,000～3,000万円の直売所で売場効率が15万円/㎡、年間販売金額が3,000～5,000万円の直売所で売場効率が24万円/㎡となる結果が示されている。

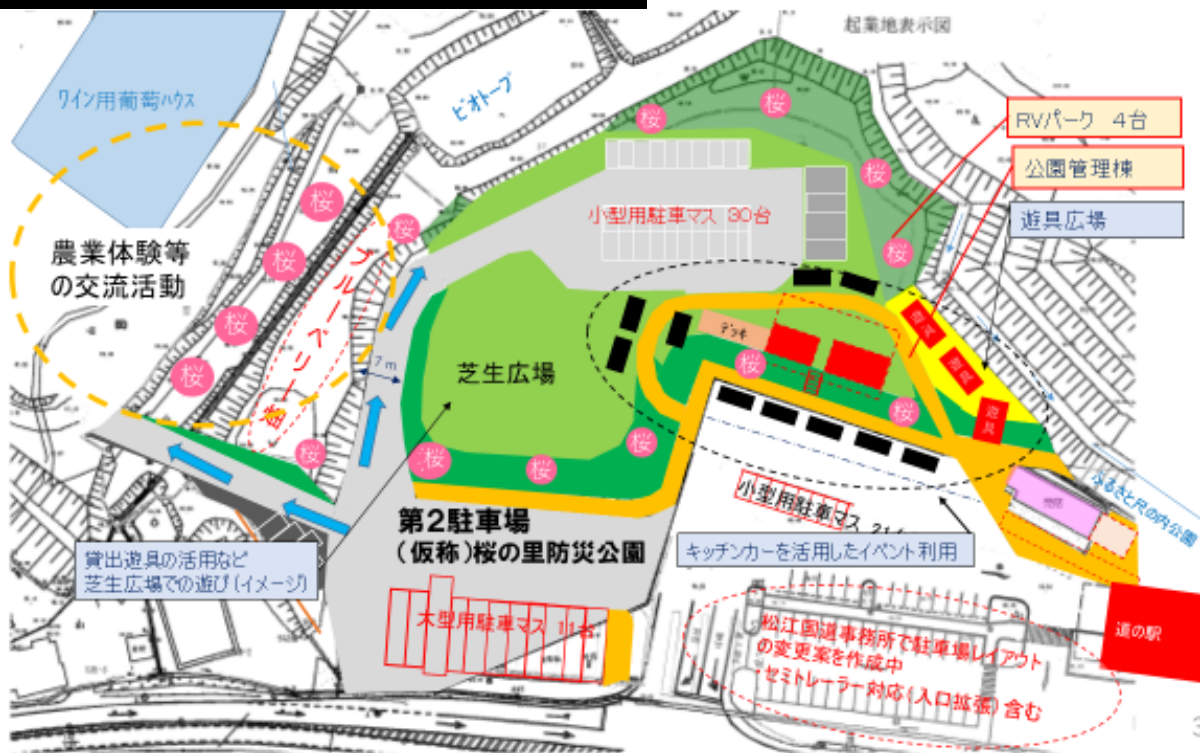


2)道の駅 さくらの里きすき

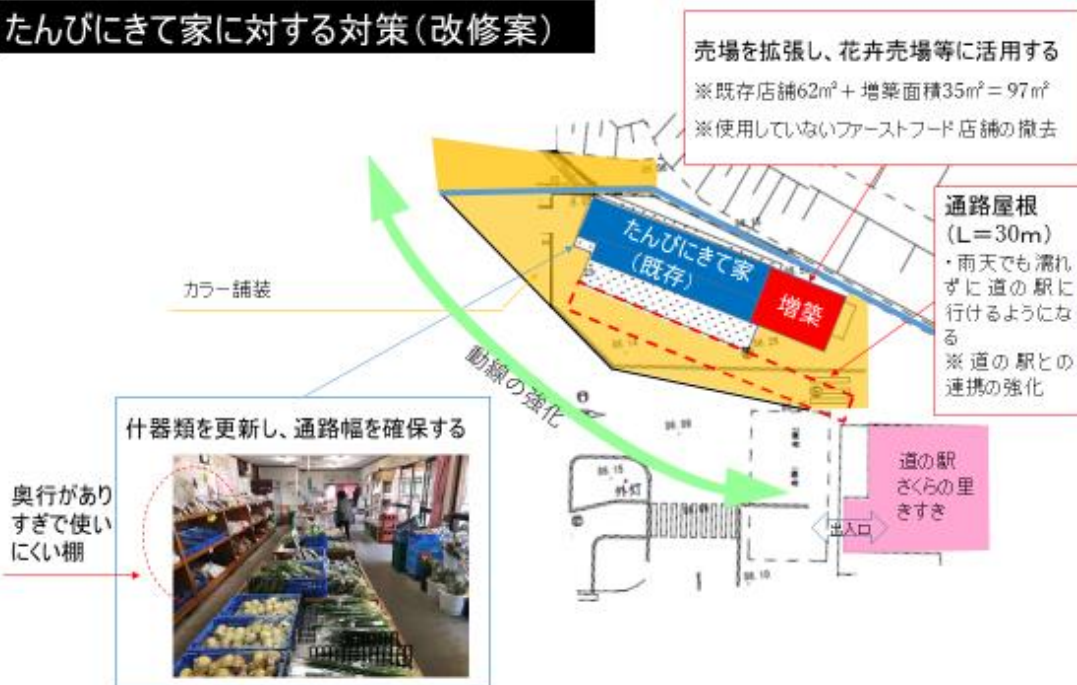


目的	平面計画上の課題点に対する対応策	
防 災 公 園	<p>1. 道の駅の隣接地に防災公園(第2駐車場)を整備する。</p> <p>1) 被災時の避難場所として(芝生部分も活用して)100台以上、駐車できるスペースを確保する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・照明はソーラー等、停電時でも機能するものを設置し、EV急速充電器についても設置する。 ・公園管理棟内にトイレ、倉庫など配置し、隣接する防災テントのところには災害時に炊事ができる設備を設置する。 <p>2) 長期避難に対応する必要となった場合、応急仮設住宅を設置できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて防災トイレ、倉庫なども設置する。 ・仮設住宅の配置を想定して上下水道を必要箇所敷設する。 	 <p>山口島根豪雨災害(2013年)での設置状況</p>
観 光	<p>1. 市所有の駐車エリアを拡張する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐車スペースを30台以上確保。ハイシーズンやイベント時の駐車場不足を解消。 ・観光バスの予約できる大型駐車マスの2マス確保。 <p>2. イベント等集客に利用する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キッチンカーなど営業車両を設置できるスペースを確保し、催事の開催がやりやすくなる。また、駐車スペースを広くつかった車の展示イベントなども誘致可能になる ・芝生公園として利用(遊び道具の貸し出し、仮設テント等を設置) ・RVパークを整備し、車中泊のニーズに対応する。県内においては道の駅「ごいせ仁摩」にRVパークが5区画あり、活発に利用されている。価格:2750円(ゴミ回収、電源使用料込み) ・「さくらの里きすき」という名称にちなんでシンボルツリーとして桜を植栽し、桜まつりなどを行う。 <p>3. 安全性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セミトレーラー用の駐車マスを確保するとともに、大型車と小型車の駐車エリアを明確に区分したことにより、大型車と小型車の混在が少なくなり、事故のリスクを低減できる。 	

道の駅さくらの里(改修案)平時



たんびにきて家に対する対策(改修案)



□ 面積決定の基準（1次避難地）

一次避難地の機能を有する都市公園の配置の考え方を以下のとおりとする。

なお、防災公園整備プログラム策定主体の判断により、必要に応じてプログラムに追加するものとする。

1. 役割：大震火災等の災害発生時において、主として近隣の住民の一次的避難の用に供する。
2. 配置基準：おおむね500m圏域に1箇所
3. 配置指針：避難路となる緑道等に接続し、広域避難地、他の一次避難地、学校等の公共施設、地域幹線道路等へのアクセスが容易であること。
4. 諸元：面積はおおむね1ha以上（周辺市街地と一体となって、1ha以上となるものを含む）

出典：防災公園の計画・設計・管理運営ガイドライン（国土技術政策総合研究所）

□ 参考事例①（加東市防災広場）

同程度の規模の防災広場として、加東市防災広場の例を参考とする。

加東市防災広場は、大規模災害発生時における地域防災拠点として利用するため、加東市に整備された広場（防災公園）である。

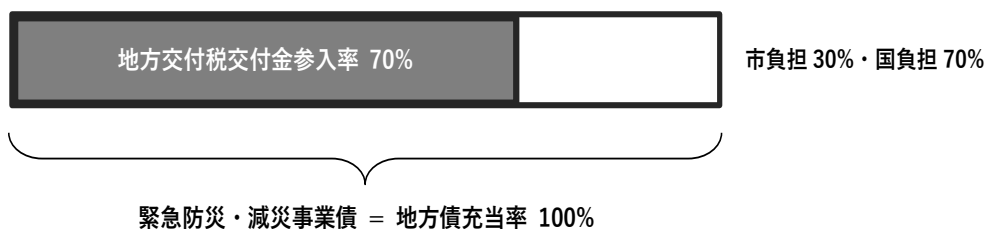
広場には、大規模災害発生時に組立式簡易トイレが設置可能なマンホールトイレが5基、停電等によりガスや電気が使えない時も火を使って調理等が可能なかまどベンチ4基を備えつけられている。災害発生時以外は、憩いの場やイベント時の駐車場として活用される。

位置：兵庫県加東市山国 1959 番

面積：9,894 m²

総事業費：167 百万円

※財源：緊急防災・減災事業債（用地補償費、設計費、工事費など）



防災公園の状況(出典:加東市役所HP)



かまどベンチ



ソーラーパネル式街路灯



マンホール・マンホールトイレ

□ 参考事例②（トライアルパーク蒲原）

芝生広場の活用イメージとして、トライアルパーク蒲原を参考とする。

トライアルパーク蒲原は、静岡市蒲原地区の海沿い 1ha の敷地において、行政と民間（公共 R 不動産と静岡市）が連携して進めるプロジェクトである。芝生広場を、新しいことにチャレンジする場、すなわちトライアルパークと呼び、地域、企業、市民、行政によるそれぞれの活用が実験的に進められている。「トライアル」の名称には、暫定形態で拠点をオープンさせながら、相応しい機能や施設を試行していく手法、という意味が込められている。令和 4 年春のオープン以降、キッチンカーや仮設店舗による出店（地域、企業、市民）や、サイクリング拠点としての整備活用（行政）が実施されている。



芝生広場の活用状況（左手の建屋はトイレ+トライアルキッチン+サイクルハブ） 出典：トライアルパーク蒲原HP



芝生の上で仮設のものをうまく活かしている（出典：トライアルパーク蒲原HP）

□ 芝生活用のその他の事例

芝生広場の活用にあたって、幅広いアクティビティ創出のために、貸出遊具や仮設プール、テントサウナ等の導入を検討する。

貸出遊具の充実



出典：公共 R 不動産 HP



出典：道の駅やちよ HP

水が豊富にある場合の取組み



仮設プール

出典：イベント21HP



テントサウナ(飯南町ふるさとの森キャンプ場)

出典：公益財団法人ニッポンドットコム

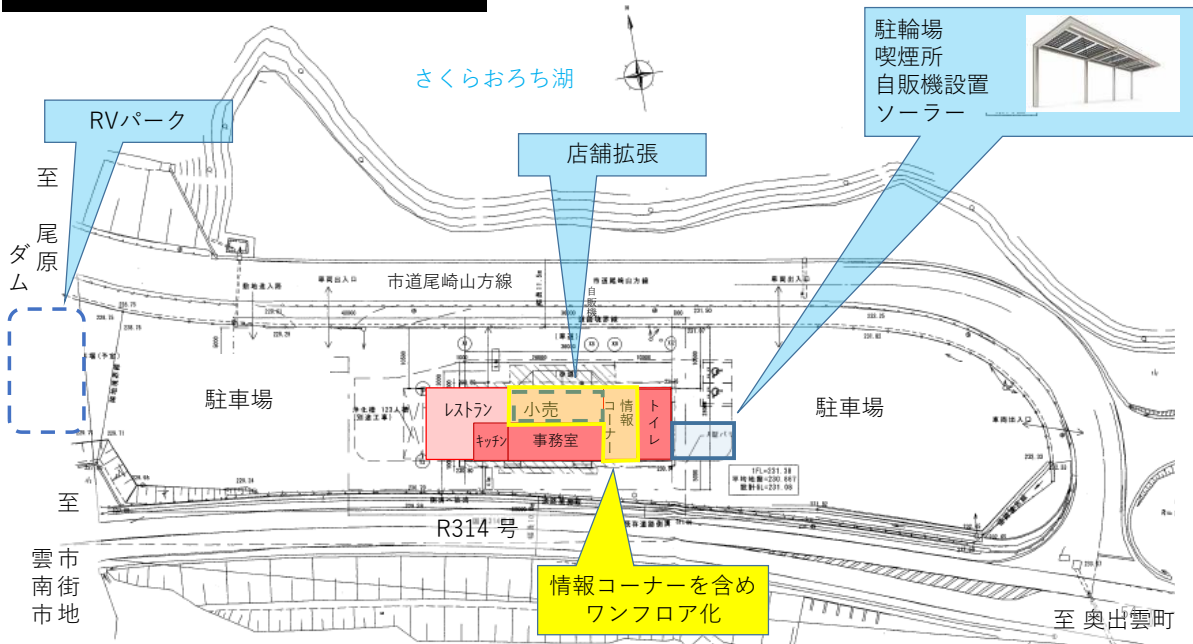
3)道の駅 おろちの里

特産品販売コーナーが50㎡と狭い。産直の農産物に多様性、希少性があり、潜在供給力が高いことが強みであるが、販売エリアが小さいために、その強みが十分に発揮できていない。また、店舗前面に喫煙所が設置されており分煙が十分でないことも課題である。

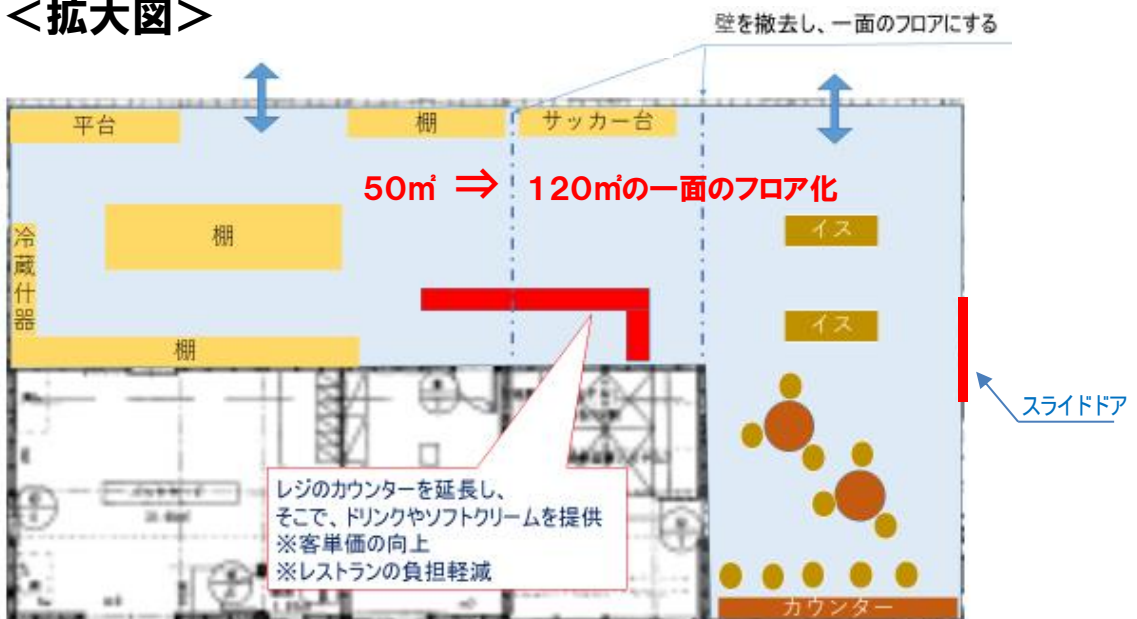
売場合計(㎡)		おろちの里 を1とした 場合
おろちの里	50	
たたらば 吉番地	150	3 倍
掛合の里	199	4 倍
さくらの里 きすき	407	8 倍

これらの課題に対して、整備方針を次のように設定する。①情報コーナーと小売スペースを一体化する、②店舗東側に駐輪場・喫煙所・自動販売機を設置する屋根付スペースを増設する。

道の駅おろちの里 (案)



<拡大図>



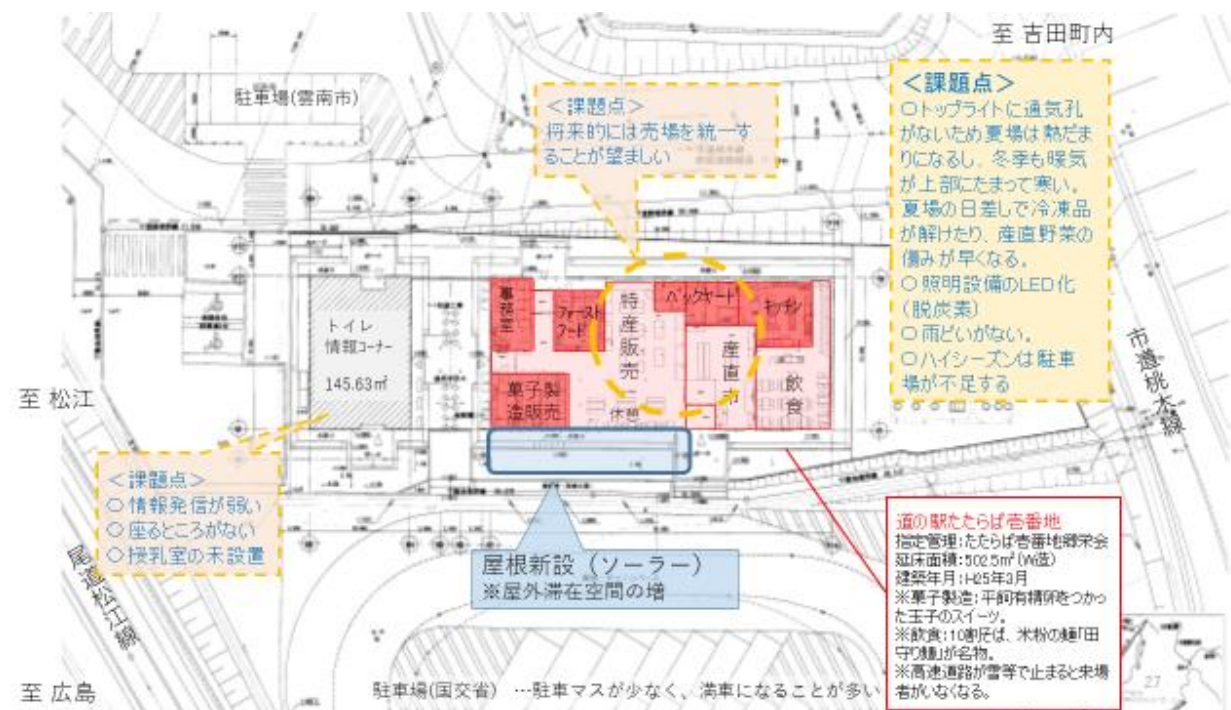
3) 道の駅 たたらば畚番地

観光面で、施設内にゆったり滞在できる環境が少なく（店内の着席スペースが9席）、快適な屋外滞在環境がないという課題がある。また、混雑時の駐車場の不足も課題である。

これらの課題に対して、アクションプランに示した通り、回転率向上と滞在の快適性向上を両立する滞在空間を創出する方針で再整備を計画する。具体的には、①エントランス部に屋外庇を増設し、軒下での快適な屋外滞在スペースを確保する、②屋内の座席数が少ないため、コロナ禍で縮小していた座席数を見直し、屋内滞在スペースを拡充する、③消費喚起・回転率向上に資する適切な滞在空間となるよう、店舗の視認性や導線に配慮する。

その他、トップライトからの夏場の日差し、照明設備の老朽化等の設備の課題があり、設備の更新を検討する。

また、ハイシーズンには駐車場が不足するため、駐車場の拡張も将来的には検討すべきである。



資料編 アクションプランの試行

資料編 アクションプランの試行

アクションプランのうち、今年度中に実施可能なものについて、試行的に実施した。
具体的な内容は以下のとおり。

◆ 道の駅 掛合の里

①地域住民の巻き込み（住民ワークショップ）

道の駅掛合の里の将来の姿を考える地域ワークショップを令和4年11月12日（土）に開催した。掛合地域の住民や三刀屋高校掛合分校の生徒など計38名が参加した。

三刀屋高校掛合分校では、地域探求学習の一環として、事前に関係者への取材を行い、道の駅の活性化のアイデアをまとめてもらった。

ワークショップ当日は、高校生による地域探求学習の成果発表の後、グループに分かれ、「売る・買う（商品企画・販売促進など）」「伝える（情報発信など）」「食べる（レストラン活用など）」「遊ぶ・学ぶ（公園活用など）」「過ごす・集まる（地域で使う）」のテーマごとに意見交換（ワールドカフェ）を実施した。

地域の力を活かした地場産商品のPR力強化などのアイデアや、子どもの遊び場といった地域ニーズが集まった。今後、アイデアの実行に向けた地域ワークショップを企画することが求められる。

今後の道の駅のあり方や、地域の将来を考える上で、地域住民を主体としたワークショップを行うことは有効な方策の一つとなり得る。特に、将来を担う若者を巻き込んで検討するような仕掛けが求められる。

三刀屋高校掛合分校の生徒による地域探求学習の成果発表

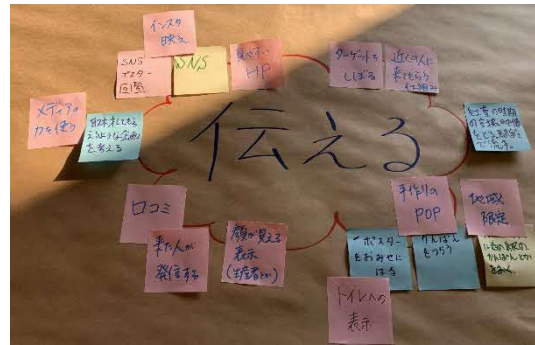


ワールドカフェでの「収穫」

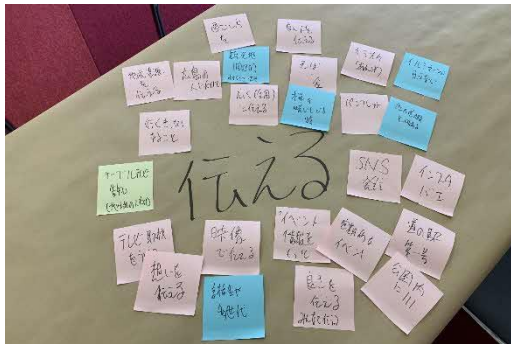
テーブル①「売る・買う」



テーブル②「伝える」



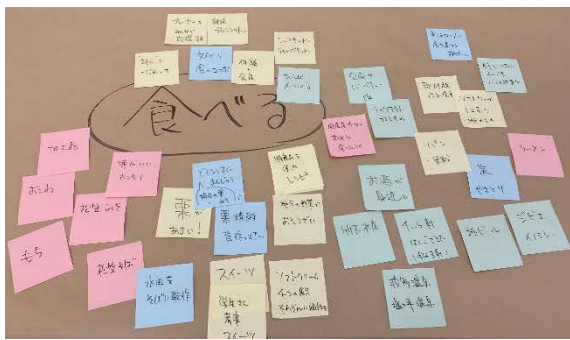
テーブル③「伝える」



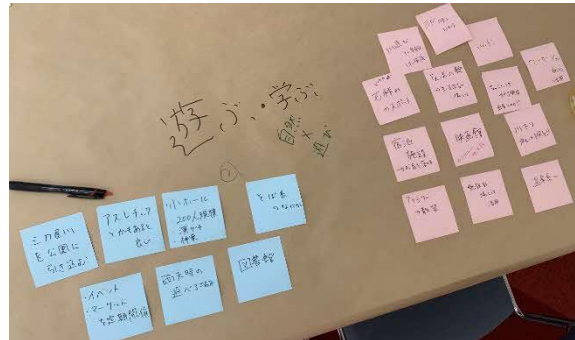
テーブル④「食べる」



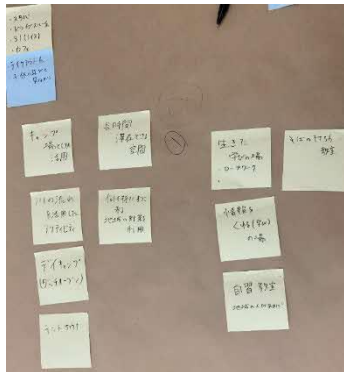
テーブル⑤「食べる」



テーブル⑥「遊ぶ・学ぶ」



テーブル⑥「遊ぶ・学ぶ」



テーブル⑦「過ごす・集まる」



②目玉コンテンツの開発（そばイベント）

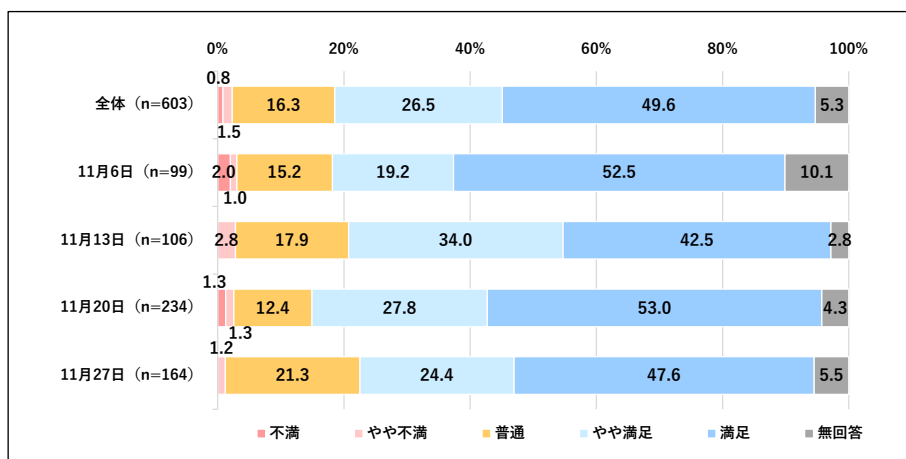
道の駅への集客と、現在休業している飲食店機能の再開に向けた可能性について検証するため、観光客の往来が活発な秋の行楽シーズン（令和4年11月の毎週日曜日）に、雲南市内のそば団体（松笠そば（掛合）、七福出雲そばクラブ（木次）、銅鐸そば燦々会（加茂））が週替わりで出店し、新そばの提供を行った。

また、地域資源である道の駅（交流拠点）・滝（観光資源）・そば（食・産業・歴史）を組み合わせた体験コンテンツにより、地域の魅力の再発見・活性化について検証するため、令和4年11月27日（日）にそば打ち体験と八重滝巡りをセットしたツアーイベントを試行実施した。

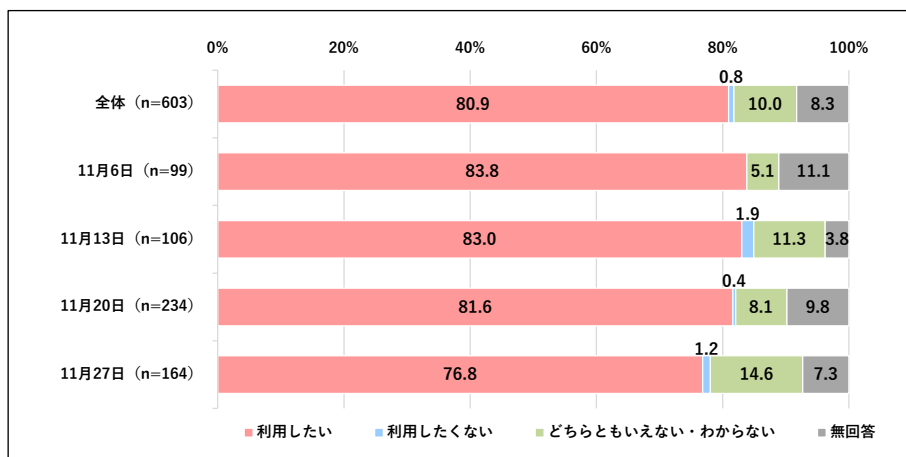
利用者・参加者へのアンケートでは、高い満足度や再訪意向が得られたことから、引き続きそば団体との関係性を継続していくとともに、将来的な飲食店機能の再開や、地域資源を活用したコンテンツによる地域の活性化が期待される。

そばイベントの利用者アンケート結果（抜粋）

・総合的な満足度



・再訪意向



そばイベントの様子



そば打ち体験・八重滝巡りの様子



